

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成26年12月9日提出
【発行者名】	明治安田アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石川 昌秀
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門三丁目4番7号
【事務連絡者氏名】	谷口 嘉邦
【電話番号】	03 - 6731 - 4720
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	明治安田外国債券ファンド
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	上限5,000億円
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

明治安田外国債券ファンド（以下「当ファンド」ということがあります。）
愛称として“ハリヤー”という名称を用いることがあります。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託受益権（以下「受益権」といいます。）です。
当ファンドについて、委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、若しくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、若しくは閲覧に供される予定の信用格付けはありません。
ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である明治安田アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

5,000億円を上限とします。

上記金額には申込手数料および申込手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額は含まれていません。

（４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額 とします。

取得申込の受付は、販売会社の営業日の午後3時までとします。なお、当該受付時間を過ぎてからの申込は、翌営業日の取扱いとします。

ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日にあたる場合は、申込の受付を行いません。

基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除して得た金額をいいます。当ファンドは、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示されます。

基準価額は委託会社の営業日に日々計算されます。

基準価額は販売会社または下記へお問い合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787（受付時間は、営業日の午前9時～午後5時）

ホームページアドレス <http://www.myam.co.jp/>

当ファンドは、原則として、計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

（５）【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じた額に、1.62%（税抜1.5%）を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは販売会社へお問い合わせください。

「自動けいぞく投資コース」の場合、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

自動けいぞく投資コースでは、自動継続投資契約（計算期末に支払われる収益分配金で当ファンドの買付を自動的に行うことに関して、当ファンドの当初取得申込時にあらかじめ指定する契約。販売会社により名称が異なる場合があります。）を販売会社と結びます。

（６）【申込単位】

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問い合わせください。

取得申込者が販売会社との間で、自動継続投資契約および定時定額購入取引に関する契約等を締結した場合、当該契約に規定する単位とします。

（７）【申込期間】

平成26年12月10日から平成27年6月9日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

（８）【申込取扱場所】

原則として、販売会社の本支店等とします。

販売会社については、下記へお問い合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787（受付時間は、営業日の午前9時～午後5時）

ホームページアドレス <http://www.myam.co.jp/>

（９）【払込期日】

取得申込者は、販売会社の定める日までに申込代金（申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じた額）、申込手数料および申込手数料に係る消費税等に相当する金額の合計額）を販売会社に支払うものとします。詳しくは販売会社へお問い合わせください。

なお、振替受益権に係る各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

（１０）【払込取扱場所】

申込を受付けた販売会社とします。

（１１）【振替機関に関する事項】

振替機関は株式会社証券保管振替機構です。

（１２）【その他】

申込証拠金

該当事項はありません。

本邦以外の地域における発行

該当事項はありません。

決算日

毎年3月9日（休業日の場合は翌営業日）

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則にしたがって取扱われるものとします。ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

「明治安田外国債券ファンド」（愛称：ハリアー）は、「明治安田外国債券マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として日本を除く主要国の公社債への投資を行うことにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

この信託は、信託財産に属する財産についての対抗要件に関する事項を除き、信託法（大正11年法律第62号）の適用を受けます。

当ファンドは一般社団法人投資信託協会が定める分類方法において以下の通りとなっております。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型	国内	株式
追加型	海外	債券
	内外	不動産投信
		その他資産（ ）
		資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

< 商品分類表（網掛け表示部分）の定義 >

追加型

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

海外

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

債券

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回 年2回 年4回	グローバル (日本除く) 日本 北米		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年6回 (隔月) 年12回 (毎月)	欧州 アジア オセアニア	ファミリー ファンド	あり ()
不動産投信	日々	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券 (債券 一般))	その他 ()	アフリカ 中近東 (中東)		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

<属性区分表（網掛け表示部分）の定義>

その他資産（投資信託証券（債券 一般））

目論見書または投資信託約款において、投資信託証券（投資形態がファミリーファンドまたはファンド・オブ・ファンズのものをいいます。）を通じて、公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものに主として投資する旨の記載があるものをいいます。

年1回

目論見書または投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。

グローバル（日本除く）

目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界（日本を除く。）の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド

目論見書または投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいいます。

為替ヘッジなし

目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

(注) 上記各表のうち網掛け表示のない商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（アドレス：<http://www.toushin.or.jp/>）で閲覧が可能です。

信託金の限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、5,000億円を限度として信託金を追加することができます。また、委託会社は、受託会社と合意のうえ、あらかじめ監督官庁に届け出ることにより当該限度額を変更することができます。

ファンドの特色

明治安田外国債券ファンドは、明治安田外国債券マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を除く主要国の公社債を投資対象とし、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

日本を除く主要国の公社債を主要投資対象とします。

公社債への投資は、BBB格またはBBB格相当以上の格付を得ている信用度の高い銘柄とします。

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る運用成果を目指します。

シティ世界国債インデックスは、世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

マザーファンドにおける日本を除く主要国の公社債等の運用指図の権限は、UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドに委託します。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

ただし、運用効率の向上を図るため、外貨のエクスポージャーの調整を行う場合があります。

（２）【ファンドの沿革】

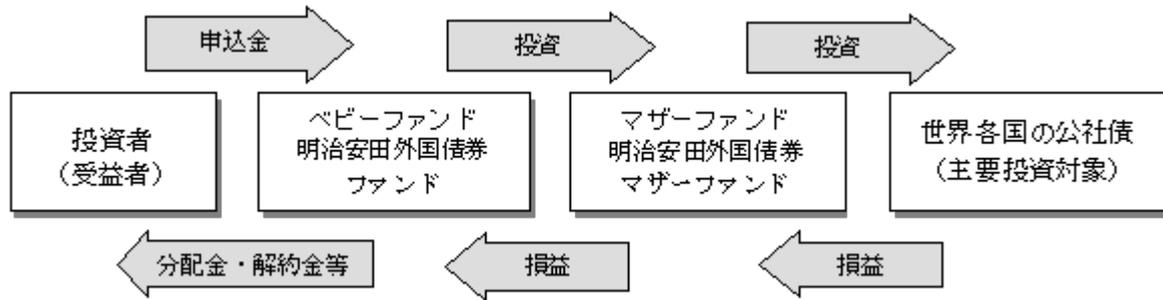
- | | |
|------------|---|
| 平成12年3月24日 | 信託契約締結、信託財産の設定、運用開始 |
| 平成16年1月1日 | 「YPW外国債券ファンド」から「安田外国債券ファンド」へファンド名変更 |
| 平成22年10月1日 | ファンドの委託会社としての業務を安田投信投資顧問株式会社から明治安田アセットマネジメント株式会社に承継
「安田外国債券ファンド」から「明治安田外国債券ファンド」へファンド名変更
「安田外国債券マザーファンド」から「明治安田外国債券マザーファンド」へファンド名変更 |
| 平成22年10月1日 | 投資対象である明治安田外国債券マザーファンドについて投資顧問会社を「UBSグローバル・アセット・マネジメント（US）・インク」から「UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッド」に変更 |

（３）【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。

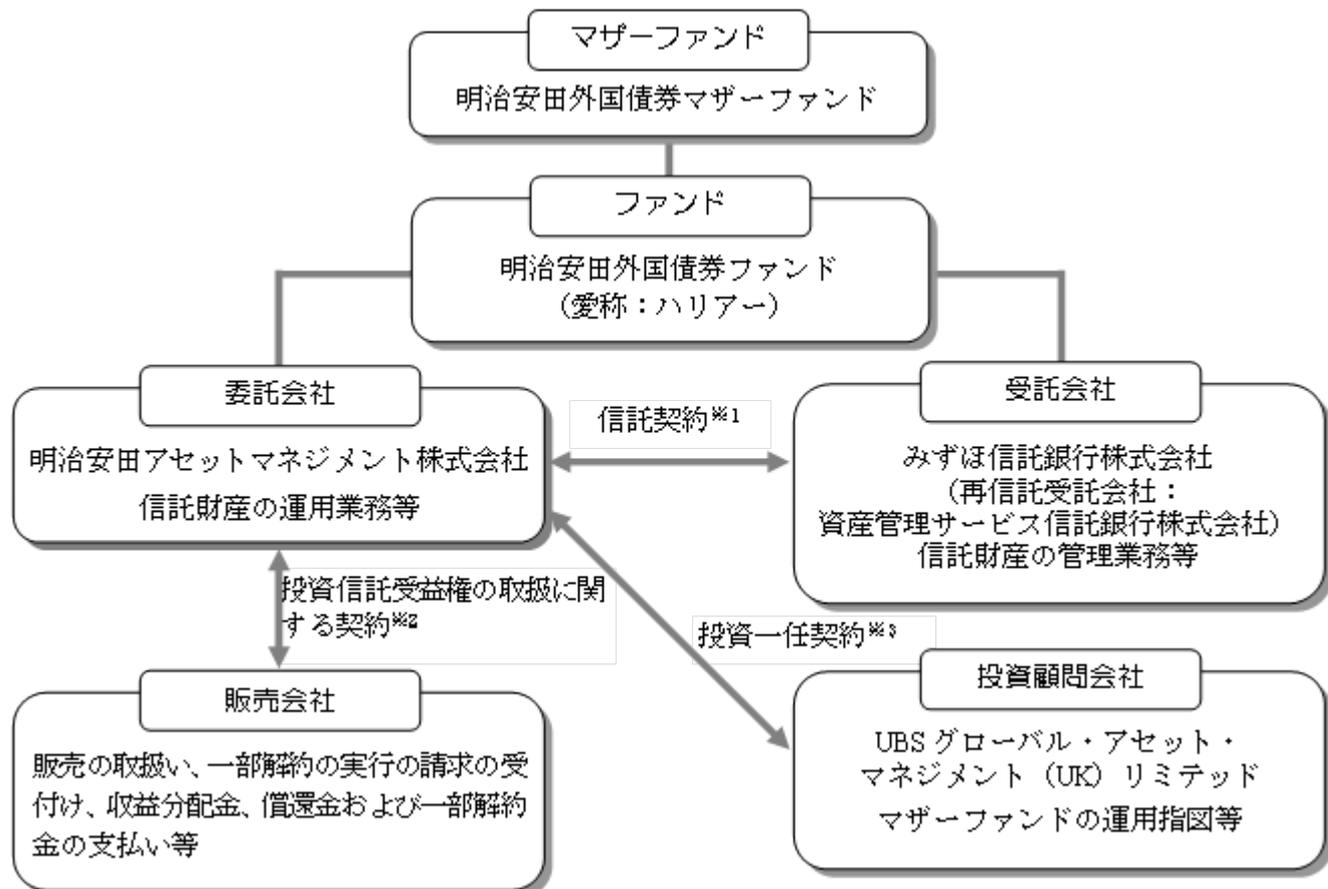
ファミリーファンド方式とは、お客様からご投資いただいた資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。



損益は全て投資者である受益者に帰属します。

委託会社及びファンドの関係法人

1. 委託会社（委託者）：明治安田アセットマネジメント株式会社
信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。
2. 受託会社（受託者）：みずほ信託銀行株式会社
信託財産の保管・管理業務等を行います。
（受託者は信託事務の一部につき資産管理サービス信託銀行株式会社に委託することがあります。）
3. 販売会社
ファンドの販売会社として募集・販売の取扱い、一部解約実行の請求の受付け、収益分配金、償還金等の支払い、運用報告書の交付等を行います。
4. 投資顧問会社：UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッド
マザーファンドの運用の指図に関する投資判断、発注等を行います。



1 信託契約

委託会社と受託会社との間において、「信託契約（信託約款）」を締結しており、委託会社及び受託会社の業務、受益者の権利、投資信託財産の運用・評価・管理、収益の分配、信託期間、償還等を規定しています。

2 投資信託受益権の取扱いに関する契約

委託会社と販売会社との間において、「投資信託受益権の取扱いに関する契約」を締結しており、販売会社が行う募集・販売等の取扱い、収益分配金及び償還金の支払い、買取り及び解約の取扱い等を規定しています。

3 投資一任契約

委託会社と投資顧問会社との間において「投資一任契約」を締結しており、運用指図に関する権限委託の内容およびこれに係る事務の内容ならびに投資顧問会社が受ける投資顧問報酬等を規定しています。

委託会社等の概況

1. 資本金の額（本書提出日現在）：10億円

2. 委託会社の沿革：

昭和61年11月 コスモ投信株式会社設立
 平成10年10月 ディーアンドシーキャピタルマネジメント株式会社と合併、商号を「コスモ投信投資顧問株式会社」に変更
 平成12年2月 商号を「明治ドレスナー投信株式会社」に変更
 平成12年7月 明治ドレスナー・アセットマネジメント株式会社と合併、商号を「明治ドレスナー・アセットマネジメント株式会社」に変更
 平成21年4月 商号を「MDAMアセットマネジメント株式会社」に変更
 平成22年10月 安田投信投資顧問株式会社と合併、商号を「明治安田アセットマネジメント株式会社」に変更

3. 大株主の状況（本書提出日現在）

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式数の割合
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	17,539株	92.86%
アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ゲー・エム・ベー・ハー	ドイツ, 60323 フランクフルト・アム・マイン, ボッケンハイマー・ラントシュトラッセ42-44	1,261株	6.68%
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町2-2-2	87株	0.46%

2【投資方針】

（1）【投資方針】

1．基本方針

この投資信託は、主として日本を除く主要国の公社債への投資を行うことにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

2．運用方法

・投資対象

日本を除く主要国の公社債を主要投資対象とする明治安田外国債券マザーファンド受益証券（以下「マザーファンド受益証券」といいます。）を主要投資対象とします。なお、公社債に直接投資する場合があります。

・投資態度

主として、日本を除く主要国の公社債（マザーファンド受益証券を含みます。）を投資対象として、長期的な運用を行います。

マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持します。ただし、市況動向等によっては、適宜変更を行う場合があります。

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る運用成果をあげることが目標に運用を行います。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、外貨のエクスポージャーの調整を行う場合があります。

設定・償還時および追加設定・解約等に伴う資金動向や市況動向等によっては、上記の運用と異なる場合があります。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引ならびに外国の市場における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引と類似の取引（以下「有価証券先物取引等」といいます。）を行うことができます。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことができます。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。

信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債の貸付けを行うことができます。

マザーファンドの投資方針

1．基本方針

この投資信託は、主として日本を除く主要国の公社債への投資を行うことにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

2．運用方法

・投資対象

日本を除く主要国の公社債を主要投資対象とします。

・投資態度

日本を除く主要国の公社債を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る運用成果を目指します。

投資に際しては、いずれかの評価機関からBBB格またはBBB格相当以上の格付を得ている信用度の高い銘柄とします。

格付を取得していない公社債については、委託会社が同等の信用力があると判断した場合には投資を行うことがあります。

日本を除く主要国の公社債等の運用指図に関する権限は、UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドに委託します。

ポートフォリオの構築にあたっては、市場のファンダメンタルズ分析、バリュエーション分析、センチメント分析等を行いつつ、信用リスク、流動性リスクおよび分散投資に配慮しながら、ポートフォリオ全体のリスク低減を図りつつ、投資を行います。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、外貨のエクスポージャーの調整を行う場合があります。

公社債の組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市況動向等により弾力的に変更を行う場合があります。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等を行うことができます。

信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、スワップ取引を行うことができます。

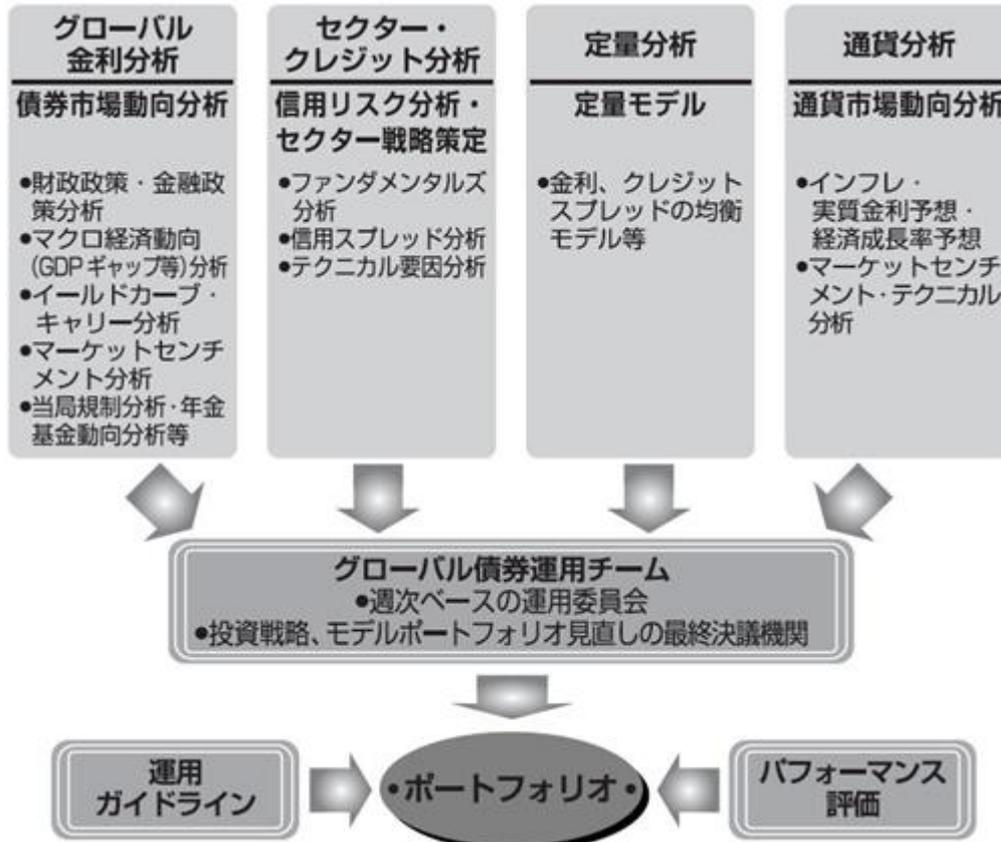
信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。

信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債の貸付を行うことができます。

・運用プロセス

<UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドの運用プロセス>

UBSグローバル・アセット・マネジメント・グループの運用プロセスは、グローバルリサーチ体制によるボトムアップ分析と運用拠点のトップダウン判断の融合によって構成されます。ポートフォリオ¹の超過収益獲得のためには、収益源の分散とリスク管理が重要になります。このため、定量モデルやクレジット・リサーチによるファンダメンタルズ分析やテクニカル分析²と、経済調査や市場心理などの市場動向分析を踏まえた上で、各運用拠点からもたらされる調査や分析内容を活用し、収益機会の分散を図ります。また、同時にリスク管理を運用プロセスの一環として融合することで、リスク調整後の期待リターンを重視したポートフォリオの構築・管理を行います。



運用プロセスは、平成26年9月末現在のものであり、今後変更となることがあります。

1) グローバル金利分析

各主要債券市場について、財政政策・金融政策分析、マクロ経済動向（GDPギャップ等）分析、イールドカーブ³・キャリー⁴分析、マーケットセンチメント⁵分析等、債券市場動向分析を行います。

2) セクター・クレジット分析

経済ファンダメンタルズ分析に加え、信用スプレッド⁶分析、テクニカル要因分析を行い、セクター戦略の策定を実施します。

3) 定量分析

金利、通貨、信用スプレッドに関するモデルにより定量分析を行います。

4) 通貨分析

各主要通貨に対して、ファンダメンタルズ分析およびテクニカル分析を行い、ベンチマークに対する通貨配分戦略を決定します。

5) ポートフォリオの構築

各分析の結果に基づき、グローバル債券運用チームの運用委員会において、分散投資を維持しながら、リスク調整後期待リターンの観点からモデルポートフォリオを作成します。その後、

ファンドマネージャーが、運用ガイドラインを遵守しつつ実際のポートフォリオを構築し、グローバル債券運用チームが実際のポートフォリオに関する最終的な意思決定を行います。

6) パフォーマンス評価

リスク調整済みリターンを中心とするパフォーマンス分析に加え、実際のポートフォリオとモデルポートフォリオとの乖離、ベンチマークとの乖離、類似ファンドとの乖離、各市場毎および各セクター毎の乖離等についてモニタリングを継続し、適宜見直しを行います。

投資対象および投資制限は、原則として「明治安田外国債券ファンド」と実質的に同様です。

1 ポートフォリオ

語義は“紙ばさみ”や“書類かばん”の意味ですが、資産運用においてはそれが転じて、株式や債券等の複数の銘柄や資産の組み合わせを意味するようになりました。

2 ファンダメンタルズ分析とテクニカル分析

一般的にファンダメンタルズ分析は、証券等の投資価値を求めて発行主体の経営的・財務的特性等の分析を行います。これに対してテクニカル分析は、市場現象に着目した分析を行います。例えば、価格や出来高の推移を図示して、そこから変化傾向を読み取ったり、市場の需給関係等の状況から変動方向を判断します。

3 イールドカーブ

ある一時点において、他の条件が等しく、残存期間のみ異なる債券を対象とし、横軸に残存期間をとり、縦軸に利回りをとったときにできる曲線のことを言います。一般的に、イールドカーブが右下がりのときは将来金利が低下すると予想され、右上がりのときは将来金利が上昇すると予想されます。

4 キャリー

異なる通貨間の金利差を狙う取引です。例えば、金利の低い通貨で資金調達して、金利の高い通貨で運用して利ザヤを稼ぐ、という手法があります。

5 マーケットセンチメント

市場心理のことで、市場参加者が一様に感じているマーケットの雰囲気や相場の状況をさします。「地合い」とも言われます。

6 信用スプレッド

社債利回りを安全資産の代表とされる国債利回りとの対比でみた利回り格差を指します。デフォルトなど信用リスクに対する市場評価や投資家選好などの指標にしばしば利用されます。

（２）【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ．有価証券
 - ロ．デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款に定めるものに限ります。）
 - ハ．金銭債権
 - ニ．約束手形
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ．為替手形

運用の指図範囲等

委託会社は、信託金を、主として明治安田アセットマネジメント株式会社を委託会社とし、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結されたマザーファンドおよび次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前1.から11.の証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
14. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）
17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

22. 外国の者に対する権利で前21.の有価証券の性質を有するもの

なお、1.の証券または証書、12.ならびに17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券ならびに12.および17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.および14.の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、前 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

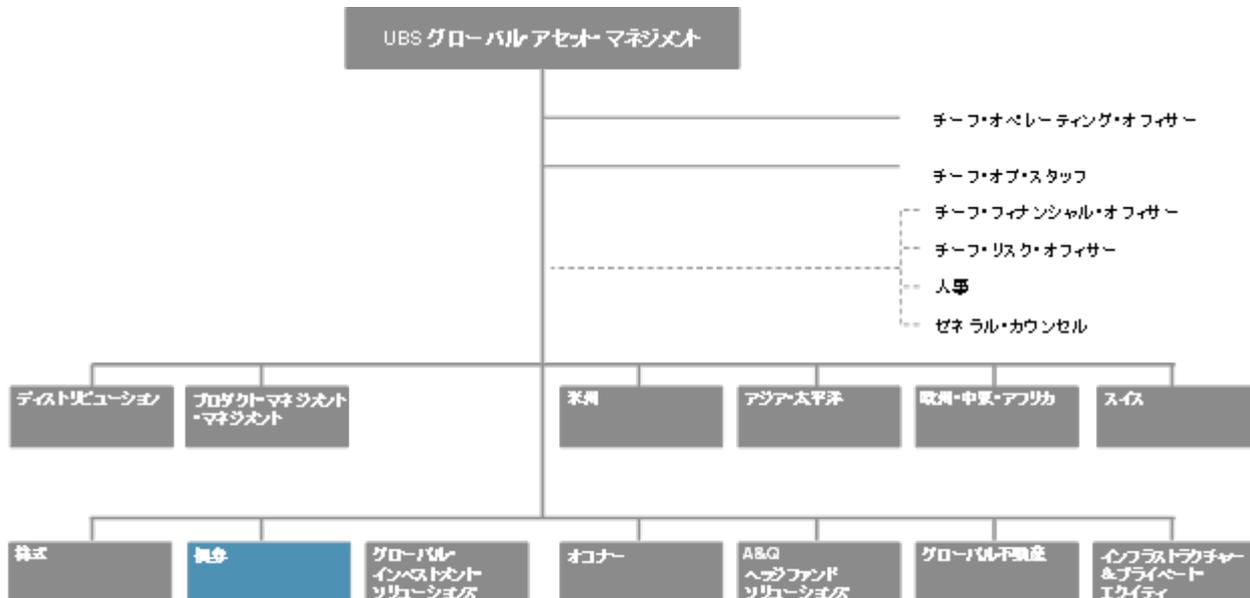
1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前5.の権利の性質を有するもの

前 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（３）【運用体制】

当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドの運用は、下図に示すUBSグローバル・アセット・マネジメント・グループ内のUBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドに委託しております。UBSグローバル・アセット・マネジメント・グループは、世界的なネットワークを有しております。

なお、運用体制は平成26年9月末現在のものであり、今後変更となる可能性があります。



2014年9月現在

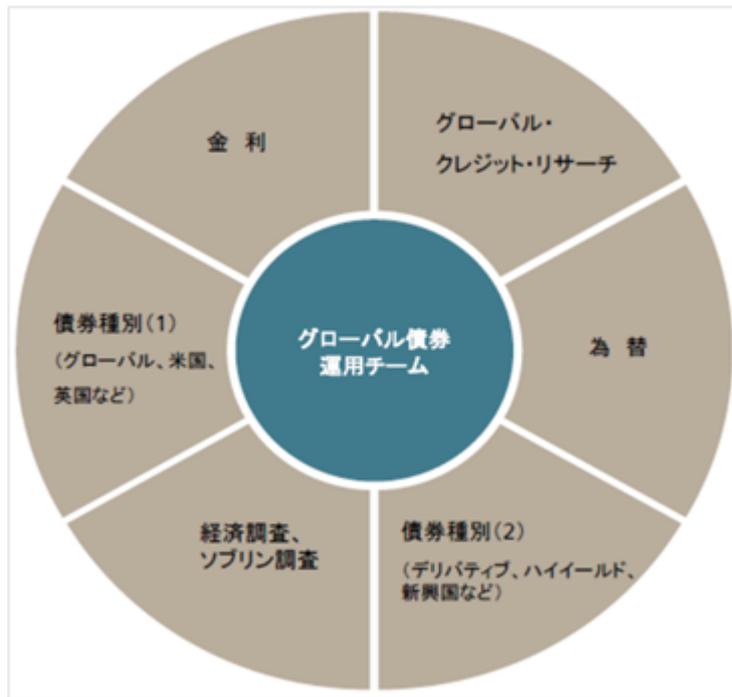
当マザーファンドにおける債券運用は、Fixed Income（債券）（平成26年9月末現在145名超）内のグローバル債券チーム（Global Fixed Income（グローバル債券））によって行われ、その組織図は以下の通りです。グローバル債券運用チームは、グローバル債券ヘッドがその責任を負っています。

< グローバル債券運用チーム >



2014年9月現在

■ 債券運用戦略
■ 債券運用調査・分析部門
■ その他



2014年9月末現在

【リスク管理プロセス】



ダウンサイド・リスクの管理、過去実績データ等を踏まえた各超過収益要因のリスク評価、ストレス・テストなどを重視したリスク管理をしています。

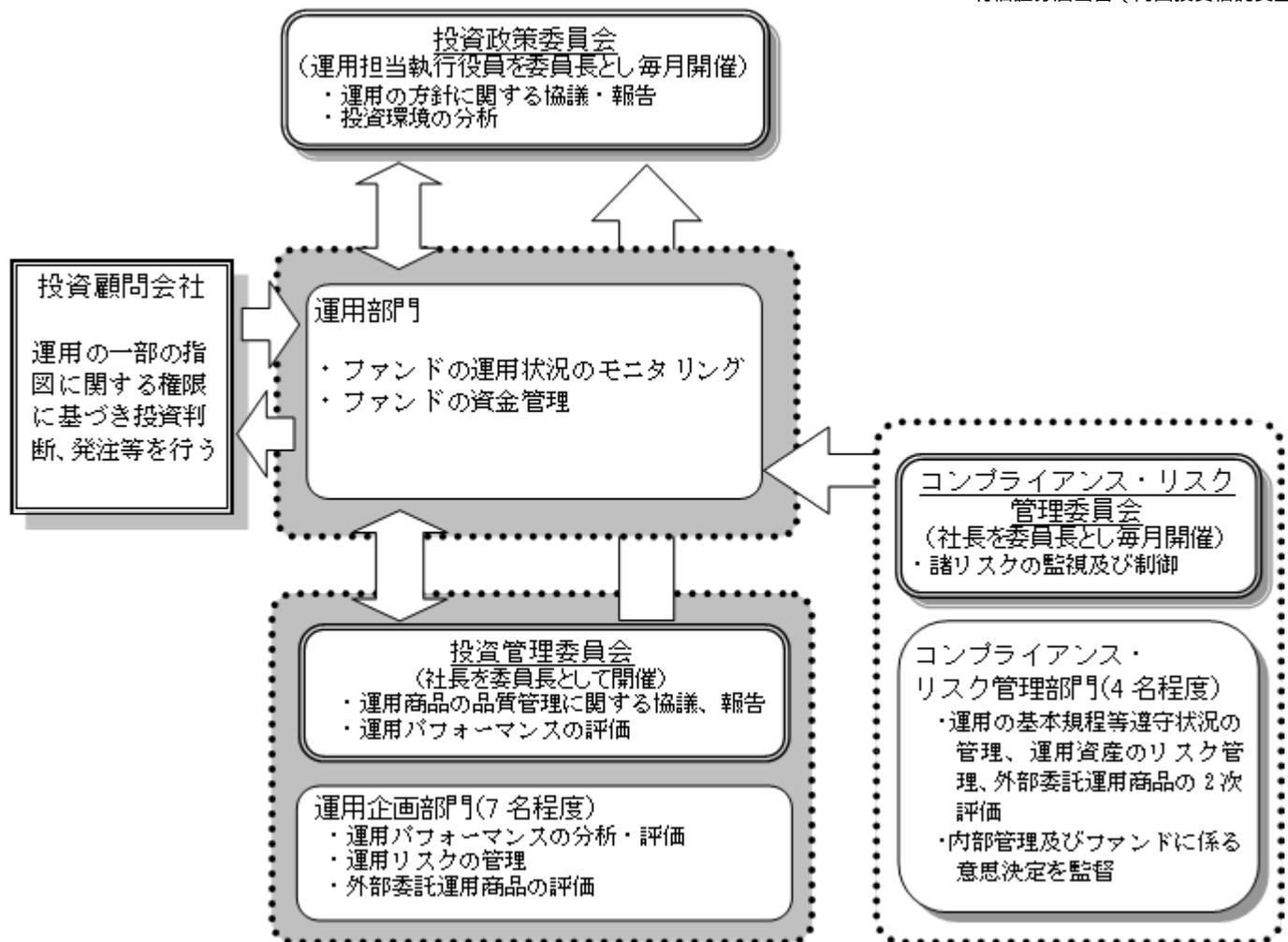
当ファンドの委託会社における運用体制は以下の通りです。

投資政策委員会にて、マクロ経済環境・市況環境に関する分析、資産配分・資産毎の運用戦略に関する検討を行います。

ファンドの運用担当者は、ファンドコンセプト、運用ガイドライン等を踏まえて運用計画を策定し、運用計画に基づき運用を行います。

ファンドに関する運用ガイドライン等の遵守状況のチェック、運用資産のリスク管理は、運用部門から独立したコンプライアンス・リスク管理部、運用企画部が行います。必要に応じて投資顧問会社（外部委託先）に対しチェック結果のフィードバック等を行い、状況改善を指示します。

投資管理委員会にて、ファンドの運用パフォーマンスの評価等を行います。必要に応じて投資顧問会社（外部委託先）に対し評価結果のフィードバック等を行い、状況改善を指示します。



- ・ファンド運用に関する社内規程として、「投資一任契約および信託財産の運用業務に関する基本規程」及び基本規程に付随する細則等の取扱い基準を設けております。
- ・ファンドの関係法人に対する管理は、管理関連部門において適正に管理しております。

ファンドの運用体制等は、本書提出日現在のものであり、今後変更となることがあります。

< 受託会社に対する管理体制 >

当社では、受託会社または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務にかかわる内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

(4) 【分配方針】

年1回（毎年3月9日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。

分配対象額の範囲は、諸経費等控除後の利子・配当収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載また

は記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。なお、時効前の収益分配金に係る収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いします。「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合は、分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(5)【投資制限】

< 投資信託約款に基づく投資制限 >

株式等への投資制限

委託会社は、取得時において信託財産に属する株式、新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式、新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図を行いません。

信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。以下同じ。

投資信託証券への投資制限

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券（マザーファンドを除きます。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図を行いません。

同一銘柄の株式等への投資制限

委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該同一銘柄の株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超える投資の指図を行いません。

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図を行いません。

同一銘柄の転換社債等への投資制限

委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

先物取引等の運用指図・目的・範囲

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。）における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします（以下同じ。）。

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の運用指図・目的・範囲

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについては、この限りではありません。

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等を基に算出した価額で評価するものとします。

委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

デリバティブ取引等に係る投資制限

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

有価証券の貸付の指図および範囲

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債について次の範囲内で貸付の指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

前 に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

公社債の空売りの指図および範囲

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、公社債（信託財産により借入れた公社債を含みます。）の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

前 の売付の指図は、当該売付に係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内で行うものとします。

信託財産の一部解約等の事由により、前項の売付に係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

公社債の借入れの指図および範囲

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときには、担保の提供の指図を行うものとします。

前 の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内で行うものとします。

信託財産の一部解約等の事由により、前 の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を決済するための指図をするものとします。

前 の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約の指図

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

前 の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売り予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するために行う当該予約取引の指図については、この限りではありません。

前 の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

資金の借入れ

委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。

収益分配金の再投資に係る借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は信託財産中より支弁します。

法律等で規制される取引等

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」等関係法令を遵守し、受益者のため忠実に、また受益者に対し善良な管理者の注意をもって、投資信託財産の運用の指図その他の業務を遂行しなければなりません。関係法令に定める主なものは以下の通りです。

< 同一株式の投資制限 >

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

< 投資運用業に関する禁止行為 >

運用財産に関し、あらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（1）ファンドのリスクと留意点

明治安田外国債券ファンドは、直接あるいはマザーファンドを通じて、外国の債券等、値動きのある証券に投資します（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）ので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預貯金と異なり投資元本は保証されず、元本を割り込むおそれがあります。また、ファンドの信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

1. 値動きの主な要因

債券価格変動リスク

債券（公社債等）の価格は、金融情勢・金利変動および信用度等の影響を受けて変動します。一般に債券の価格は、市中金利の水準が上昇すると下落します。保有する債券価格の下落は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産への投資については、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。

信用リスク

投資している有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払い遅延等の債務不履行が起こる可能性があります。

また、有価証券への投資等ファンドに関する取引において、取引の相手方の業績悪化や倒産等による契約不履行が起こる可能性があります。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

2. その他の留意点

有価証券を売買しようとする際、需要または供給が少ない場合、希望する時期・価格・数量による売買ができなくなることがあります。

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式には運用の効率性等の利点がありますが、マザーファンドにおいて他のベビーファンドの追加設定・解約等に伴う売買等を行う場合には、当ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。

資金動向、市況動向等によっては、投資方針に沿う運用ができない場合があります。

収益分配は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。））を超えて行われる場合があるため、分配水準は必ずしも当該計算期間中の収益率を示すものではありません。

投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況により、分配金額の全部または一部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金は純資産から支払われるため、分配金支払いに伴う純資産の減少により基準価額が下落する要因となります。当該計算期間中の運用収益を超える分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べ下落することとなります。

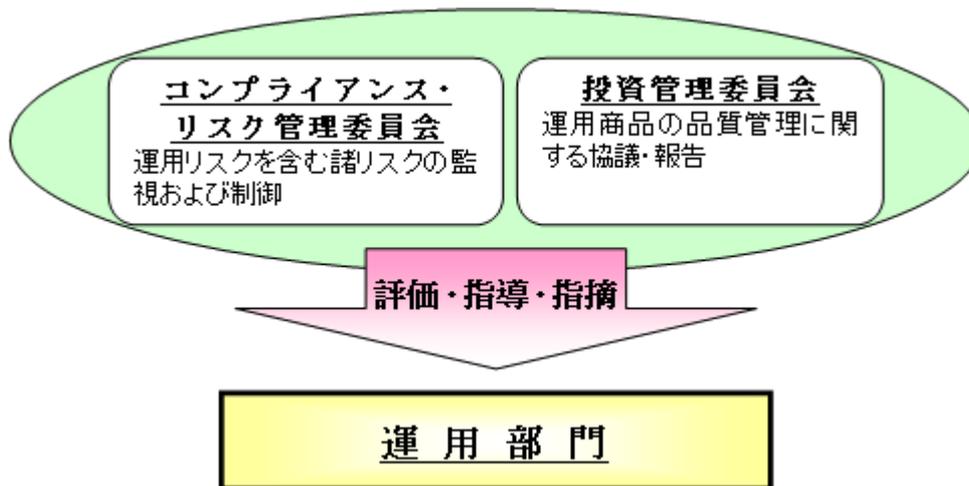
当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

（２）リスクに対する管理体制

ファンドの運用にあたっては、社内規程や運用計画に基づき、運用部門が運用プロセスの中でリスクコントロールを行います。また、運用部門から独立した部署により諸リスクの状況が確認され、各種委員会等において協議・報告される体制となっています。

コンプライアンス・リスク管理委員会は、法令諸規則・社内規程等の遵守状況、運用資産のリスク管理状況等を把握・管理し、必要に応じて指導・指摘を行います。

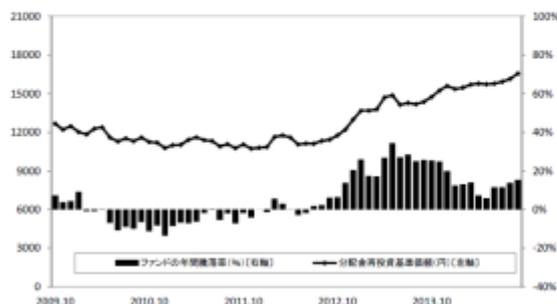
投資管理委員会は、運用パフォーマンスの評価・分析、トレーディング分析、運用スタイル・運用方針との整合性、投資信託財産の運用リスク等を把握・管理し、必要に応じて指導・指摘を行います。



ファンドのリスク管理体制等は、本書提出日現在のものであり、今後変更となることがあります。

(3) 参考情報

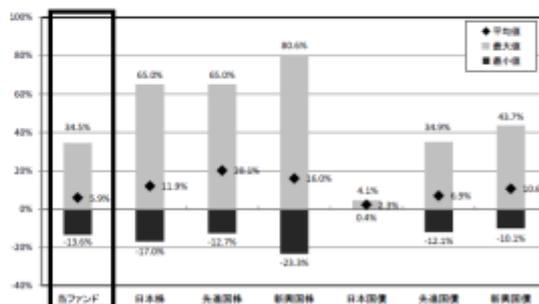
参考情報

当ファンドの年間騰落率及び
分配金再投資基準価額の推移

- ※グラフは、当ファンドの5年間の各月末における分配金再投資基準価額（税引前の分配金を再投資したものととして算出）および各月末における直近1年間の騰落率を表示しています。
- ※分配金再投資基準価額は5年前の基準価額を起点として計算したものです。
- ※年間騰落率のデータは、各月末の分配金再投資基準価額（税引前の分配金を再投資したものととして算出）をもとに計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な
資産クラスとの騰落率の比較

対象期間：2009年10月～2014年9月



- ※グラフは、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、5年間の各月末における直近1年間の騰落率データ（60個）を用いて、平均、最大、最小を表示したものです。
- ※当ファンドの年間騰落率のデータは、各月末の分配金再投資基準価額（税引前の分配金を再投資したものととして算出）をもとに計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ※全ての資産クラスが、当ファンドの投資対象とは限りません。

※各資産クラスの指数について

資産クラス	指数名称	権利者
日本株	東証株価指数（TOPIX）（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCI-KOKUSAI（配当込み・円換算ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み・円換算ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI（国債）	野村證券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）	Citigroup Index LLC
新興国債	JP モルガン GBI-EM グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

（注）海外指数は、対円での為替ヘッジなしによる投資を想定して、各月末の指数値を円換算または円ベースにて表示。

※各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、上記に記載の各権利者に帰属します。

また、各権利者は、当ファンドの運用成果等に関し一切責任を負いません。

< 代表的資産クラスの指数について >

TOPIX（東証株価指数）とは、東京証券取引所 市場第一部（以下、東証市場第一部ということがあります。）の時価総額の動きをあらわす株価指数であり、株式会社東京証券取引所（以下、東京証券取引所といいます。）が算出、公表を行っています。東証市場第一部に上場しているすべての銘柄を計算の対象としていますので、日本の株式市場のほぼ全体の資産価値の動きを表しています。

東証株価指数（TOPIX）は株式会社東京証券取引所（以下、東京証券取引所といいます）の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関する全ての権利およびTOPIXの商標に関する全ての権利は東京証券取引所が有します。東京証券取引所はTOPIXの指数値の算出若しくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出若しくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更若しくは使用の停止を行うことができます。東京証券取引所はTOPIXの商標の使用若しくはTOPIXの指数の利用に関して得られる結果について何ら保証、言及をするものではありません。

MSCI -KOKUSAI はMSCI Inc.が算出する日本を除く世界主要国の株式市場を捉える指数として広く認知されているものであり、MSCI -KOKUSAI 指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。MSCI Inc.は当ファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が算出する新興国の株価の動きを表す代表的な指数であり、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。MSCI Inc.は当ファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

NOMURA - BPI（国債）は、日本国債の市場全体の動向を表す、野村証券株式会社によって計算、公表されている投資収益指数で、野村証券株式会社の知的財産です。野村証券株式会社は、当ファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

シティ世界国債インデックスは世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。なお、Citigroup Index LLCは、ファンドの設定又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド）はJ.P.Morgan Securities LLC(JPモルガン)が公表している、エマージング諸国の国債を中心とした債券市場の合成パフォーマンスを表す指数として広く認知されているものであり、JPモルガンの知的財産です。JPモルガンは当ファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じた額に、1.62%（税抜1.5%）を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは販売会社へお問い合わせください。

申込手数料は、購入時の商品説明・事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。

詳細については、お申込みの販売会社までお問い合わせください。

確定拠出年金制度に基づくお申込みの場合は、購入時手数料はかかりません。

収益分配金を再投資する場合、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されま

（２）【換金（解約）手数料】

かかりません。

信託財産留保額はありませ

（３）【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.35%（税抜1.25%）の率を乗じて得た額とします。

委託会社、販売会社、受託会社間の配分については、次の通りとします。

（配分）	料率（年率）	役務の内容
委託会社	0.648%（税抜0.6%）	ファンドの運用、基準価額の算出、法定書類の作成等の対価
販売会社	0.648%（税抜0.6%）	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託銀行	0.054%（税抜0.05%）	ファンド財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
合 計	1.35%（税抜1.25%）	運用管理費用（信託報酬） = 運用期間中の日々の基準価額 × 信託報酬率

販売会社への配分については、委託会社が委託者報酬として信託財産から一旦収受した後、販売会社が行う業務に対する代行手数料として販売会社に支払われます。

信託報酬および信託報酬に係る消費税等に相当する金額は、毎計算期間の最初の6ヵ月の終了日（該当日が休業日の場合は翌営業日。）および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁します。

委託会社の報酬にはUBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドへの投資顧問報酬が含まれ、その投資顧問報酬額は当ファンドに係るマザーファンドの純資産総額に対し、年0.325%の率を乗じて得た額とします。

（４）【その他の手数料等】

ファンドは以下の費用も負担します。

信託財産の監査費用として純資産総額に対して年0.0054%（税抜0.005%）を支払う他、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息等は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの組入る有価証券の売買時の売買委託手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額、ならびに先物・オプション取引に要する費用、信託財産を外国で保管する場合の費用等を、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産において一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産中より支弁します。

その他の費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、監査費用は監査法人等により見直され、変更される場合があります。

監査費用は監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、売買委託手数料は有価証券等の売買の際に売買仲介人に支払う手数料、保管費用は海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用です。

当該手数料等の合計額については、投資者の皆様様の保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

（５）【課税上の取扱い】

個人、法人別の課税の取扱いについて

1) 個人の受益者に対する課税

< 収益分配金の課税 >

収益分配金のうち普通分配金が配当所得として課税されます。

原則として、以下の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。

なお、確定申告を行い、総合課税または申告分離課税を選択することもできます。

時期	税率
平成26年1月1日以降	20.315%（所得税15.315%および地方税5%）

< 一部解約時および償還時の課税 >

一部解約時および償還時の譲渡益（一部解約の価額および償還価額から取得費用（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益）が譲渡所得として課税されます。原則として、以下の税率による申告分離課税が適用されます。なお、特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合は、以下の税率で源泉徴収され、申告は不要となります。

時期	税率
平成26年1月1日以降	20.315%（所得税15.315%および地方税5%）

< 損益通算について >

一部解約時および償還時の損失については、確定申告等により、上場株式等の譲渡益と相殺することができ、上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算も可能となります。また、一部解約時および償還時の差益については、他の上場株式等との譲渡損との相殺が可能となります。

2) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、以下の税率で源泉徴収されます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

時期	税率
平成26年1月1日以降	15.315%（所得税のみ）

個別元本について

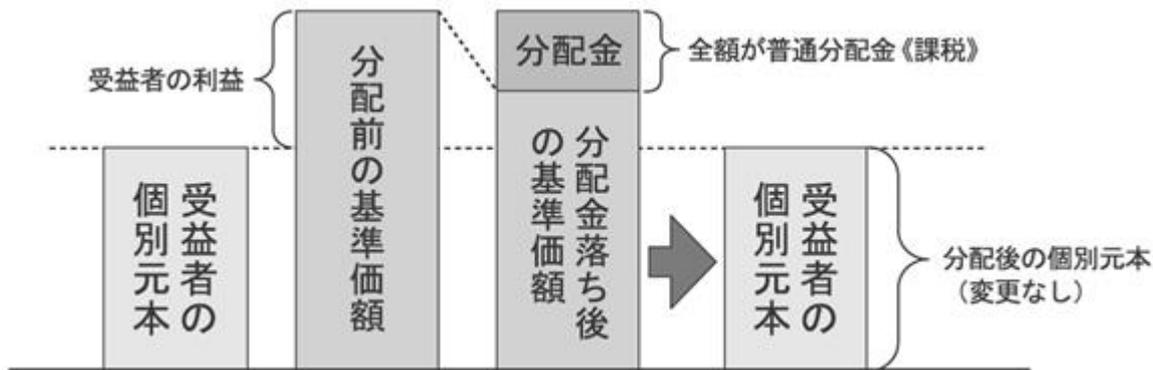
- 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として、個別元本は当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 受益者が同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合には各販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一の販売会社であっても複数口座で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該口座毎に、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われることがあります。
- 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金について

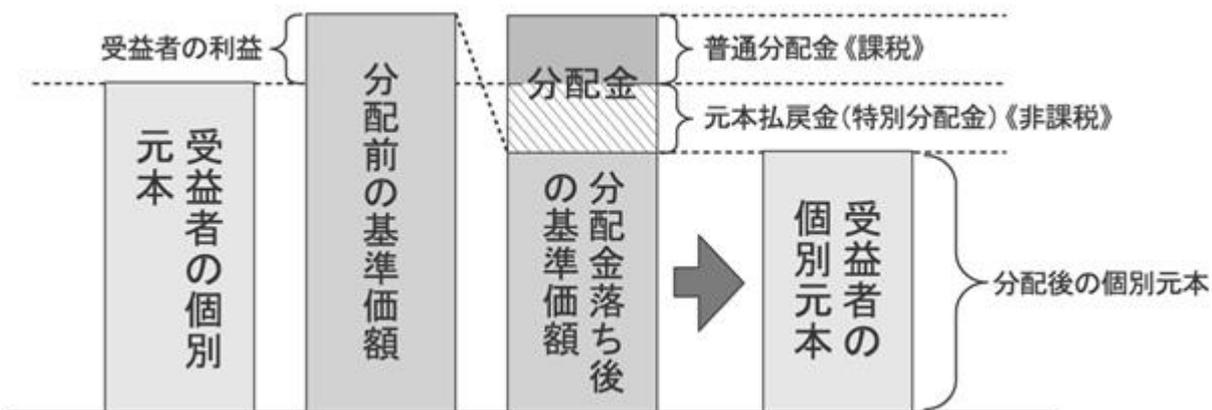
収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払い戻しに相当する部分）があります。

- 1) 収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本と同額の場合または受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- 2) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。なお、収益分配金の発生時に、その個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額がその後の受益者の個別元本になります。

1) の場合



2) の場合



上記の図はイメージ図であり、個別元本、基準価額および分配金の各水準等を示唆するものではありません。

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

当ファンドは配当控除、益金不算入制度の適用対象外です。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

< 少額投資非課税制度（NISA）をご利用の場合 >

少額投資非課税制度（NISA）は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。

他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。

ご利用になることができるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは販売会社へお問い合わせください。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。

税法が改正された場合等は、上記内容が変更されることがあります。課税上の取扱いの詳細は、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

5【運用状況】

以下は平成26年9月30日現在の運用状況です。

投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資比率の合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

マザーファンドの運用状況は当ファンドの後に記載されています。

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	133,276,687	99.49
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		685,787	0.51
合計(純資産総額)		133,962,474	100.00

(2)【投資資産】**【投資有価証券の主要銘柄】****イ. 評価額上位銘柄明細**

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	明治安田外国債券 マザーファンド	50,079,543	2.5093	125,666,344	2.6613	133,276,687	99.49

ロ. 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.49
合計	99.49

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（ 3 ） 【運用実績】

【純資産の推移】

期別		純資産総額（円）		1万口当たり純資産額（円）	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第5期計算期間末	（平成17年 3月 9日）	136,077,141	140,393,491	13,556	13,986
第6期計算期間末	（平成18年 3月 9日）	142,898,048	147,707,103	13,966	14,436
第7期計算期間末	（平成19年 3月 9日）	122,440,910	126,482,251	14,543	15,023
第8期計算期間末	（平成20年 3月10日）	127,193,700	130,812,791	14,058	14,458
第9期計算期間末	（平成21年 3月 9日）	110,680,420	114,340,599	12,096	12,496
第10期計算期間末	（平成22年 3月 9日）	111,106,478	113,866,683	11,673	11,963
第11期計算期間末	（平成23年 3月 9日）	108,080,536	110,298,340	10,721	10,941
第12期計算期間末	（平成24年 3月 9日）	121,886,984	124,554,607	10,966	11,206
第13期計算期間末	（平成25年 3月11日）	213,525,148	217,325,394	12,923	13,153
第14期計算期間末	（平成26年 3月10日）	139,512,934	142,473,008	14,139	14,439
	平成25年 9月末日	139,297,790		13,200	
	10月末日	143,007,683		13,551	
	11月末日	148,327,017		14,011	
	12月末日	150,320,440		14,336	
	平成26年 1月末日	143,866,877		14,117	
	2月末日	140,554,889		14,212	
	3月末日	140,860,882		14,132	
	4月末日	140,422,362		14,202	
	5月末日	137,437,566		14,151	
	6月末日	132,867,965		14,194	
	7月末日	133,870,311		14,330	
	8月末日	141,075,726		14,524	
	9月末日	133,962,474		14,908	

【分配の推移】

期	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第5期計算期間	平成16年 3月10日～平成17年 3月 9日	430
第6期計算期間	平成17年 3月10日～平成18年 3月 9日	470
第7期計算期間	平成18年 3月10日～平成19年 3月 9日	480
第8期計算期間	平成19年 3月10日～平成20年 3月10日	400
第9期計算期間	平成20年 3月11日～平成21年 3月 9日	400
第10期計算期間	平成21年 3月10日～平成22年 3月 9日	290
第11期計算期間	平成22年 3月10日～平成23年 3月 9日	220

第12期計算期間	平成23年 3月10日～平成24年 3月 9日	240
第13期計算期間	平成24年 3月10日～平成25年 3月11日	230
第14期計算期間	平成25年 3月12日～平成26年 3月10日	300

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第5期計算期間	平成16年 3月10日～平成17年 3月 9日	1.66
第6期計算期間	平成17年 3月10日～平成18年 3月 9日	6.49
第7期計算期間	平成18年 3月10日～平成19年 3月 9日	7.57
第8期計算期間	平成19年 3月10日～平成20年 3月10日	0.58
第9期計算期間	平成20年 3月11日～平成21年 3月 9日	11.11
第10期計算期間	平成21年 3月10日～平成22年 3月 9日	1.10
第11期計算期間	平成22年 3月10日～平成23年 3月 9日	6.27
第12期計算期間	平成23年 3月10日～平成24年 3月 9日	4.52
第13期計算期間	平成24年 3月10日～平成25年 3月11日	19.94
第14期計算期間	平成25年 3月12日～平成26年 3月10日	11.73
第15期中間計算期間	平成26年 3月11日～平成26年 9月10日	3.31

(注) 各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

（４）【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第5期計算期間	平成16年 3月10日～平成17年 3月 9日	59,742,739	1,114,987,421
第6期計算期間	平成17年 3月10日～平成18年 3月 9日	23,486,720	21,546,618
第7期計算期間	平成18年 3月10日～平成19年 3月 9日	25,752,366	43,878,086
第8期計算期間	平成19年 3月10日～平成20年 3月10日	24,482,860	18,200,181
第9期計算期間	平成20年 3月11日～平成21年 3月 9日	17,199,236	16,172,044
第10期計算期間	平成21年 3月10日～平成22年 3月 9日	14,611,330	10,936,313
第11期計算期間	平成22年 3月10日～平成23年 3月 9日	15,083,770	9,453,975
第12期計算期間	平成23年 3月10日～平成24年 3月 9日	21,078,379	10,736,718
第13期計算期間	平成24年 3月10日～平成25年 3月11日	78,306,854	24,229,705
第14期計算期間	平成25年 3月12日～平成26年 3月10日	16,112,662	82,671,632
第15期中間計算期間	平成26年 3月11日～平成26年 9月10日	13,562,981	15,360,623

(参考)

明治安田外国債券マザーファンド

(1) 投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	アメリカ	618,091,618	27.81
	イタリア	297,257,342	13.37
	イギリス	257,118,728	11.57
	ベルギー	146,566,245	6.59
	フランス	125,071,134	5.63
	スペイン	103,169,300	4.64
	カナダ	57,617,960	2.59
	スウェーデン	52,988,916	2.38
	オーストリア	25,727,112	1.16
	ドイツ	25,099,850	1.13
	メキシコ	24,150,942	1.09
	デンマーク	22,906,176	1.03
	ニュージーランド	16,742,515	0.75
	マレーシア	13,426,180	0.60
	オランダ	12,439,141	0.56
	シンガポール	10,903,983	0.49
	南アフリカ	10,315,127	0.46
	ノルウェー	8,383,433	0.38
	オーストラリア	4,450,132	0.20
	小計	1,832,425,834	82.45
特殊債券	国際機関	46,639,505	2.10
	フランス	39,041,143	1.76
	ドイツ	28,693,931	1.29
	小計	114,374,579	5.15
社債券	オランダ	49,049,601	2.21
	アメリカ	36,421,348	1.64
	イギリス	30,550,778	1.37
	スイス	24,689,350	1.11
	ドイツ	19,536,387	0.88
	オーストラリア	16,422,766	0.74
	フランス	14,930,608	0.67
	小計	191,600,838	8.62
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		84,115,503	3.78

合計(純資産総額)	2,222,516,754	100.00
-----------	---------------	--------

その他の資産の投資状況

資産の種類	建別	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
為替予約取引	買建		853,527,367	38.40
	売建		810,556,516	36.47

(注) 為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	アメリカ	国債 証券	TSY INFL IX N/B 0.125%	1,823,000	11,137.98	206,395,904	10,979.20	203,513,406	0.125	2019/4/15	9.16
2	イギリス	国債 証券	TREASURY 4%	850,000	19,148.88	162,765,565	18,863.54	160,340,143	4	2016/9/7	7.21
3	イタリア	国債 証券	BTPS 3.75%	640,000	14,784.10	94,618,241	15,764.52	100,892,943	3.75	2021/3/1	4.54
4	イタリア	国債 証券	BTPS I/L 2.1%	590,000	14,156.40	90,312,374	15,214.59	96,908,813	2.1	2021/9/15	4.36
5	アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B 1.75%	735,000	10,173.06	74,772,007	10,383.21	76,316,619	1.75	2023/5/15	3.43
6	アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B 2.125%	615,000	10,759.44	66,170,605	10,894.55	67,001,484	2.125	2021/8/15	3.01
7	フランス	国債 証券	FRANCE O.A.T. 3.5%	395,000	15,354.85	60,651,681	16,782.43	66,290,636	3.5	2026/4/25	2.98
8	アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B 0.875%	590,000	10,982.21	64,795,056	10,977.49	64,767,208	0.875	2016/12/31	2.91
9	カナダ	国債 証券	CANADA- GOV'T 2.75%	570,000	10,189.12	58,078,038	10,108.41	57,617,960	2.75	2016/9/1	2.59
10	ベルギー	国債 証券	BELGIAN 0318 3.75%	310,000	15,850.62	49,136,927	16,554.69	51,319,547	3.75	2020/9/28	2.31
11	アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B 1.5%	460,000	10,814.75	49,747,871	10,879.15	50,044,131	1.5	2019/1/31	2.25
12	アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B 0.125%	430,000	10,947.99	47,076,370	10,945.85	47,067,177	0.125	2014/12/31	2.12
13	スペイン	国債 証券	SPANISH GOV'T 5.5%	250,000	17,523.59	43,808,999	17,494.14	43,735,370	5.5	2021/4/30	1.97
14	スウェー デン	国債 証券	SWEDISH GOVRNMNT 3.5%	2,300,000	1,675.59	38,538,763	1,769.70	40,703,221	3.5	2022/6/1	1.83

15	ベルギー	国債証券	BELGIAN 3%	255,000	15,245.32	38,875,588	15,550.66	39,654,190	3	2019/9/28	1.78
16	フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 3.25%	205,000	13,873.11	28,439,882	16,567.60	33,963,596	3.25	2045/5/25	1.53
17	ベルギー	国債証券	BELGIAN 0326 4%	170,000	16,257.76	27,638,199	17,996.16	30,593,478	4	2032/3/28	1.38
18	アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 0.25%	270,000	10,921.48	29,488,010	10,921.91	29,489,165	0.25	2016/4/15	1.33
19	イタリア	国債証券	BTPS 4%	180,000	15,093.78	27,168,804	15,965.88	28,738,591	4	2020/9/1	1.29
20	イタリア	国債証券	BTPS I/L 2.55%	160,000	13,221.81	22,904,192	15,056.28	26,080,618	2.55	2041/9/15	1.17
21	スペイン	国債証券	SPANISH GOV'T 4.65%	150,000	15,313.19	22,969,793	16,935.19	25,402,795	4.65	2025/7/30	1.14
22	イタリア	国債証券	BTPS 4.75%	150,000	15,254.86	22,882,304	16,746.33	25,119,500	4.75	2028/9/1	1.13
23	ベルギー	国債証券	BELGIAN 0321 4.25%	145,000	16,356.10	23,716,357	17,240.71	24,999,030	4.25	2021/9/28	1.12
24	スイス	社債券	CREDIT SUISSE LD 4.75%	150,000	16,083.22	24,124,844	16,459.56	24,689,350	4.75	2019/8/5	1.11
25	メキシコ	国債証券	MEXICAN BONOS 8%	2,650,000	914.39	24,231,419	911.35	24,150,942	8	2020/6/11	1.09
26	デンマーク	国債証券	DENMARK - BULLET 3%	1,050,000	2,097.75	22,026,450	2,181.54	22,906,176	3	2021/11/15	1.03
27	フランス	特殊債券	AGENCE FRANCAISE 1.625%	200,000	11,006.29	22,012,584	11,050.07	22,100,144	1.625	2017/10/4	0.99
28	イギリス	国債証券	TREASURY 4.75%	101,000	20,422.32	20,626,549	20,429.96	20,634,268	4.75	2020/3/7	0.93
29	ドイツ	社債券	DEUTSCHE BK LOND 6%	160,000	12,516.70	20,026,723	12,210.24	19,536,387	6	2017/9/1	0.88
30	国際機関	特殊債券	EFSF 1.25%	135,000	14,059.19	18,979,918	14,460.53	19,521,719	1.25	2018/7/31	0.88

ロ. 種類別投資比率

種類	投資比率 (%)
国債証券	82.45
特殊債券	5.15
社債券	8.62
合計	96.22

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

資産の種類	通貨	買建 / 売建	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引	ドル	買建	3,365,400.00	344,641,460	368,208,414	16.56
	ユーロ	買建	1,116,000.00	153,555,510	154,945,440	6.97
	債券	買建	1,418,544.42	245,242,043	251,919,303	11.33
	スイスフラン	買建	70,000.00	7,876,890	8,054,200	0.36
	スウェーデンクローナ	買建	728,949.78	10,934,090	11,014,431	0.49
	ノルウェークローネ	買建	2,627,212.96	42,826,571	44,531,259	2.00
	ポーランドズロチ	買建	448,500.00	14,516,600	14,854,320	0.66
	ドル	売建	2,278,300.00	240,671,159	249,268,803	11.21
	カナダドル	売建	379,810.10	36,160,018	37,183,407	1.67
	ユーロ	売建	752,000.00	103,673,272	104,409,704	4.69
	債券	売建	1,874,500.00	323,047,817	332,892,455	14.97
	スウェーデンクローナ	売建	3,118,000.00	46,200,628	47,112,980	2.11
	ノルウェークローネ	売建	466,924.72	7,833,517	7,914,374	0.35
	デンマーククローネ	売建	247,400.00	4,535,757	4,614,010	0.20
	オーストラリアドル	売建	83,100.00	7,876,426	7,882,035	0.35
	ニュージーランドドル	売建	192,600.00	16,509,672	16,270,848	0.73
	シンガポールドル	売建	35,000.00	2,866,395	3,007,900	0.13

(注)為替予約取引は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

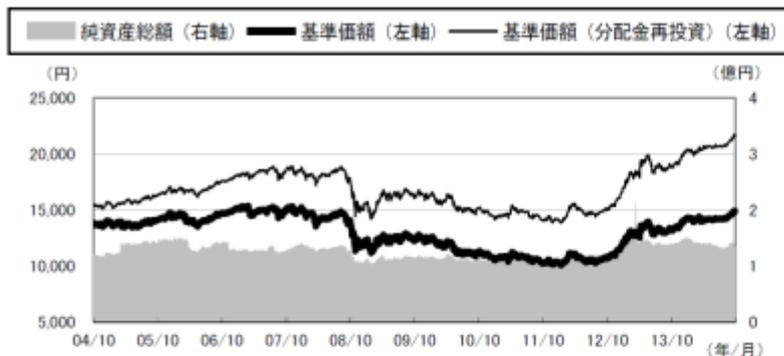
< 参考情報 >

以下の事項は交付目論見書の運用実績に記載されているものです。

2014年9月30日現在

基準価額・純資産の推移

分配の推移



※基準価額（分配金再投資）は信託報酬控除後のものであり、当ファンドの設定時を10,000円として分配金（税引前）再投資ベースで算出しています。

分配金の推移

2014年 3月	300円
2013年 3月	230円
2012年 3月	240円
2011年 3月	220円
2010年 3月	290円
設定来累計	4,918円
※分配金は、10,000口あたりの税引前の金額	
基準価額	14,908
純資産総額	1.3億円

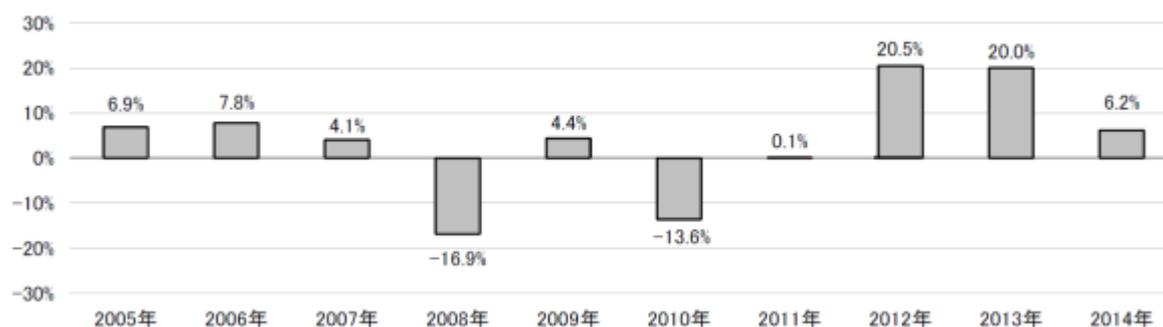
主要な資産の状況

組入上位10銘柄（マザーファンド）

	銘柄名	利率 (%)	償還期限	国/地域	種類	投資比率 (%)
1	TSY INFL IX N/B 0.125%	0.125	2019年 4月 15日	アメリカ	国債証券	9.16
2	TREASURY 4%	4	2016年 9月 7日	イギリス	国債証券	7.21
3	BTPS 3.75%	3.75	2021年 3月 1日	イタリア	国債証券	4.54
4	BTPS I/L 2.1%	2.1	2021年 9月 15日	イタリア	国債証券	4.36
5	US TREASURY N/B 1.75%	1.75	2023年 5月 15日	アメリカ	国債証券	3.43
6	US TREASURY N/B 2.125%	2.125	2021年 8月 15日	アメリカ	国債証券	3.01
7	FRANCE O.A.T. 3.5%	3.5	2026年 4月 25日	フランス	国債証券	2.98
8	US TREASURY N/B 0.875%	0.875	2016年 12月 31日	アメリカ	国債証券	2.91
9	CANADA-GOVT 2.75%	2.75	2016年 9月 1日	カナダ	国債証券	2.59
10	BELGIAN 0318 3.75%	3.75	2020年 9月 28日	ベルギー	国債証券	2.31

※投資比率はマザーファンドの対純資産総額比

年間収益率の推移（暦年ベース）



※収益率は分配金（税引前）を再投資したものととして算出しています。

※2014年は9月末までの収益率を表示しています。

※最新の運用状況は委託会社のホームページでご確認することができます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）申込受付

取得申込の受付は、販売会社の営業日の午後3時までとします。

なお、当該受付時間を過ぎてからの申込は、翌営業日の取扱いとします。

ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日にあたる場合は、申込の受付を行いません。

金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、申込の受付を中止すること、およびすでに受付けた申込の受付を取消すことがあります。

（2）申込単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社または下記へお問い合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787（受付時間は、営業日の午前9時～午後5時）

ホームページアドレス <http://www.myam.co.jp/>

取得申込者が販売会社との間で、自動けいぞく投資に関する契約（以下、「別に定める契約」といいます。）および「定時定額購入取引」等を締結した場合は、当該契約に規定する単位でのお申込になります。

（3）申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

受益者が、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の価額は、毎計算期間の末日の基準価額とします。

（4）申込手数料

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に1.62%（税抜1.5%）を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは販売会社へお問い合わせください。

収益分配金を再投資する場合、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。したがって、保護預りの形態はありません。取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金(解約)手続等】

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求には制限を設けることがあります。

(1) 解約方法

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し行うものとします。

(2) 解約受付

換金申込の受付は、販売会社の営業日の午後3時までとします。なお、当該受付時間を過ぎてからの申込は、翌営業日の取扱いとします。

ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日にあたる場合は、申込の受付を行いません。

(3) 解約単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問い合わせください。

(4) 解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額は販売会社または下記へお問い合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787 (受付時間は、営業日の午前9時～午後5時)

ホームページアドレス <http://www.myam.co.jp/>

(5) 信託財産留保額

ありません。

(6) 解約代金支払

原則として、解約請求受付日から起算して5営業日目以降、販売会社の営業所等で行います。

(7) 解約に関する留意点

金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止すること、およびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取消すことがあります。一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして計算された価額とします。

解約の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

なお、解約の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。受益証券をお手許で保有されている方で、引き続き保有される場合は、解約のお申し込みの際に、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

買取請求については、販売会社へお問い合わせください。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の算出

基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額を、計算日における受益権総口数で除して得た金額をいいます。当ファンドは便宜上1万口あたりに換算した価額で表示されます。

組入資産の評価

資産の種類	評価方法
親投資信託受益証券	基準価額計算日の基準価額で評価します。
公社債等	原則として、基準価額計算日における以下のいずれかの価額で評価します。 日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値(平均値) 第一種金融商品取引業者、銀行等の提示する価額 価格情報会社の提供する価額 外国で取引されているものについては、原則として、基準価額計算日の前日とします。
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客相場の仲値で円換算を行います。 また、予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

基準価額は委託会社の営業日に日々計算されます。

基準価額は販売会社または下記へお問い合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787（受付時間は、営業日の午前9時～午後5時）

ホームページアドレス <http://www.myam.co.jp/>

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

原則として無期限です。ただし、信託約款の規定により償還となることがあります。

(4)【計算期間】

ファンドの計算期間は、原則として毎年3月10日から翌年3月9日までとします。ただし、各計算期間終了日に該当する日が休業日のときは、その翌営業日を当該計算期間終了日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。また、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間終了日とします。

(5)【その他】

信託の終了

1) 信託契約の解約

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が10億口を下回った場合には、受託会社と合意のうえ、あらかじめ監督官庁に届け出ることにより、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

また、委託会社は、信託終了前にこの信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

この場合、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前記公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。当該一定の期間内に異議

を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託契約を解約しません。委託会社は、この信託契約を解約しないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対し交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

ただし、前段落は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

2) 信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい信託契約を解約し、信託を終了させます。

3) 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

ただし、この信託は、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えた場合を除き、業務を引継いだ委託会社と受託会社との間において存続します。

4) 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

5) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は新受託会社を選任します。ただし、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

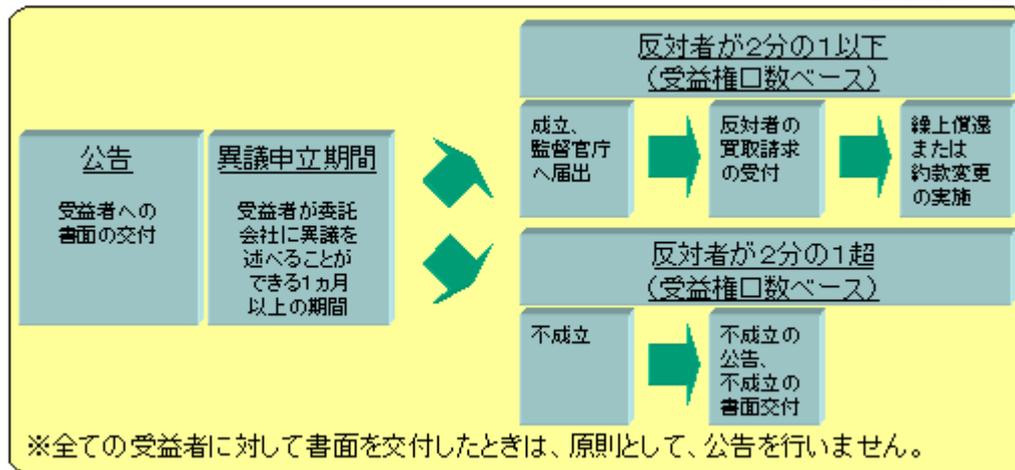
信託約款の変更

1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、信託約款の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前記公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。当該一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託約款の変更をしません。委託会社は、当該約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

2) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前1)第2および第3段落記載の手続きに従います。



関係法人との契約等

委託会社と販売会社の間で締結された販売契約は、原則として契約期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれかより別段の意思表示がない限り、1年毎に自動更新されます。

委託会社と投資顧問会社との間の契約の有効期間は信託の終了日までとしますが、契約期間中でも、委託会社は投資顧問会社に対し3ヵ月前までに、投資顧問会社は委託会社に対し6ヵ月前までに、書面をもって解約の予告をすることにより契約を解約することができます。

運用に係る報告

委託会社は、決算時および償還時に運用報告書を作成し、交付運用報告書は、知っている受益者に販売会社を通じて交付します。

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により受益者に提供することができます。この場合において、委託会社は、運用報告書を交付したものとみなします。

ただし、委託会社は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付するものとします。

公告

1) 委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.myam.co.jp/>

2) 前1)の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドに係る信託事務処理の一部について、資産管理サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

信託約款に関する疑義の取扱い

この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めます。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

収益分配金・償還金の請求権

受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を自己に帰属する受益権の口数に応じて委託会社に請求する権利を有します。収益分配金の請求権は支払開始日から5年間、償還金の請求権は支払開始日から10年間、その支払いを請求しないときはその権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

収益分配金または償還金の支払いは、原則としてファンドの決算日または償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日。）から起算して5営業日までに開始するものとします。

分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。なお、時効前の収益分配金に係る収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いしますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

換金（解約）の実行請求権

受益者は、販売会社を通じて委託会社に換金（解約）請求する権利を有します。

帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧・謄写を請求することができます。

反対者の買取請求権

投資信託約款の変更の内容が重大なものに該当するとき、または投資信託契約の解約が行われる場合、所定の期間内に異議を述べた受益者は委託会社の指定する販売会社を通じ受託会社に対し、その自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第14期計算期間（平成25年3月12日から平成26年3月10日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【明治安田外国債券ファンド】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第13期 (平成25年3月11日現在)	第14期 (平成26年3月10日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	6,338,438	5,285,694
親投資信託受益証券	211,882,865	138,122,205
未収利息	10	4
流動資産合計	218,221,313	143,407,903
資産合計	218,221,313	143,407,903
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	3,800,246	2,960,074
未払受託者報酬	35,701	37,253
未払委託者報酬	856,706	893,970
その他未払費用	3,512	3,672
流動負債合計	4,696,165	3,894,969
負債合計	4,696,165	3,894,969
純資産の部		
元本等		
元本	165,228,113	98,669,143
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	48,297,035	40,843,791
(分配準備積立金)	7,571,435	15,056,932
元本等合計	213,525,148	139,512,934
純資産合計	213,525,148	139,512,934
負債純資産合計	218,221,313	143,407,903

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第13期 (自 平成24年 3月10日 至 平成25年 3月11日)	第14期 (自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日)
営業収益		
受取利息	892	449
有価証券売買等損益	28,353,955	18,019,713
営業収益合計	28,354,847	18,020,162
営業費用		
受託者報酬	67,731	75,298
委託者報酬	1,625,371	1,806,958
その他費用	6,664	7,411
営業費用合計	1,699,766	1,889,667
営業利益又は営業損失 ()	26,655,081	16,130,495
経常利益又は経常損失 ()	26,655,081	16,130,495
当期純利益又は当期純損失 ()	26,655,081	16,130,495
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額 ()	2,399,945	2,020,782
期首剰余金又は期首欠損金 ()	10,736,020	48,297,035
剰余金増加額又は欠損金減少額	19,593,489	5,656,741
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	19,593,489	5,656,741
剰余金減少額又は欠損金増加額	2,487,364	24,259,624
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,487,364	24,259,624
分配金	3,800,246	2,960,074
期末剰余金又は期末欠損金 ()	48,297,035	40,843,791

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他	当ファンドの計算期間は、前期末及び当期末が休日のため、平成25年3月12日から平成26年3月10日までとなっております。

（貸借対照表に関する注記）

第13期 (平成25年3月11日現在)	第14期 (平成26年3月10日現在)
1. 計算期間の末日における受益権の総数 165,228,113口	1. 計算期間の末日における受益権の総数 98,669,143口
2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.2923円 (10,000口当たり純資産額) (12,923円)	2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.4139円 (10,000口当たり純資産額) (14,139円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第13期 (自平成24年3月10日 至平成25年3月11日)	第14期 (自平成25年3月12日 至平成26年3月10日)																																								
1. 当ファンドの主要投資対象である親投資信託受益証券における信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 支払金額 416,169円	1. 当ファンドの主要投資対象である親投資信託受益証券における信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 支払金額 462,202円																																								
2. 分配金の計算過程 計算期間末における分配対象額78,981,775円 (10,000口当たり4,780円14銭)のうち、3,800,246円 (10,000口当たり230円00銭)を分配金額としております。	2. 分配金の計算過程 計算期間末における分配対象額59,177,719円 (10,000口当たり5,997円56銭)のうち、2,960,074円 (10,000口当たり300円00銭)を分配金額としております。																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額または口数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益額（費用控除後） A</td> <td>3,232,897円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B</td> <td>497,885円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額 C</td> <td>67,610,094円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額 D</td> <td>7,640,899円</td> </tr> <tr> <td>分配対象額（A + B + C + D） E</td> <td>78,981,775円</td> </tr> <tr> <td>期末受益権口数 F</td> <td>165,228,113口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G</td> <td>4,780円 14銭</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たりの分配金額 H</td> <td>230円 00銭</td> </tr> <tr> <td>分配金額（F × H ÷ 10,000） I</td> <td>3,800,246円</td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額または口数	配当等収益額（費用控除後） A	3,232,897円	有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B	497,885円	収益調整金額 C	67,610,094円	分配準備積立金額 D	7,640,899円	分配対象額（A + B + C + D） E	78,981,775円	期末受益権口数 F	165,228,113口	10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G	4,780円 14銭	10,000口当たりの分配金額 H	230円 00銭	分配金額（F × H ÷ 10,000） I	3,800,246円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額または口数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益額（費用控除後） A</td> <td>3,057,755円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B</td> <td>11,051,958円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額 C</td> <td>41,160,713円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額 D</td> <td>3,907,293円</td> </tr> <tr> <td>分配対象額（A + B + C + D） E</td> <td>59,177,719円</td> </tr> <tr> <td>期末受益権口数 F</td> <td>98,669,143口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G</td> <td>5,997円 56銭</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たりの分配金額 H</td> <td>300円 00銭</td> </tr> <tr> <td>分配金額（F × H ÷ 10,000） I</td> <td>2,960,074円</td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額または口数	配当等収益額（費用控除後） A	3,057,755円	有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B	11,051,958円	収益調整金額 C	41,160,713円	分配準備積立金額 D	3,907,293円	分配対象額（A + B + C + D） E	59,177,719円	期末受益権口数 F	98,669,143口	10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G	5,997円 56銭	10,000口当たりの分配金額 H	300円 00銭	分配金額（F × H ÷ 10,000） I	2,960,074円
項目	金額または口数																																								
配当等収益額（費用控除後） A	3,232,897円																																								
有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B	497,885円																																								
収益調整金額 C	67,610,094円																																								
分配準備積立金額 D	7,640,899円																																								
分配対象額（A + B + C + D） E	78,981,775円																																								
期末受益権口数 F	165,228,113口																																								
10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G	4,780円 14銭																																								
10,000口当たりの分配金額 H	230円 00銭																																								
分配金額（F × H ÷ 10,000） I	3,800,246円																																								
項目	金額または口数																																								
配当等収益額（費用控除後） A	3,057,755円																																								
有価証券売買等損益額 （費用控除後、繰越欠損金補填後） B	11,051,958円																																								
収益調整金額 C	41,160,713円																																								
分配準備積立金額 D	3,907,293円																																								
分配対象額（A + B + C + D） E	59,177,719円																																								
期末受益権口数 F	98,669,143口																																								
10,000口当たりの分配対象額 （E ÷ F × 10,000） G	5,997円 56銭																																								
10,000口当たりの分配金額 H	300円 00銭																																								
分配金額（F × H ÷ 10,000） I	2,960,074円																																								

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

	第13期 (自 平成24年 3月10日 至 平成25年 3月11日)	第14期 (自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日)
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(その他の注記)」の「2.有価証券関係」に記載しております。これらは金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(その他の注記)」の「2.有価証券関係」に記載しております。これらは金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社においては運用部門から独立したリスク管理に関する委員会を設け投資リスクの管理を行っております。信託約款の遵守状況、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスク等モニターしており、ガイドラインに沿った運用を行っているかにつき定期的なフォロー及びチェックを実施しております。市場リスクについてはファンド運用状況の継続モニタリングを実施し、各種委員会においてパフォーマンス動向や業種配分等のポートフォリオ特性分析などファンドの運用状況を報告します。信用リスクについては格付けその他発行体等に関する情報を収集、分析のうえファンドの商品特性に照らして組入れ銘柄の信用リスク管理をしております。また、流動性リスクについては市場流動性の状況を把握し流動性リスクを管理しております。	委託会社においては運用部門から独立したリスク管理に関する委員会を設け投資リスクの管理を行っております。信託約款の遵守状況、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスク等モニターしており、ガイドラインに沿った運用を行っているかにつき定期的なフォロー及びチェックを実施しております。市場リスクについてはファンド運用状況の継続モニタリングを実施し、各種委員会においてパフォーマンス動向や業種配分等のポートフォリオ特性分析などファンドの運用状況を報告します。信用リスクについては格付けその他発行体等に関する情報を収集、分析のうえファンドの商品特性に照らして組入れ銘柄の信用リスク管理をしております。また、流動性リスクについては市場流動性の状況を把握し流動性リスクを管理しております。
4. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

	第13期 (自 平成24年 3月10日 至 平成25年 3月11日)	第14期 (自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	親投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	親投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(関連当事者との取引に関する注記)

第13期 (自 平成24年 3月10日 至 平成25年 3月11日)

該当事項はございません。

第14期 (自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日)

該当事項はございません。

(その他の注記)

1. 元本の移動

	第13期 (自 平成24年 3月10日 至 平成25年 3月11日)	第14期 (自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日)
期首元本額	111,150,964円	165,228,113円
期中追加設定元本額	78,306,854円	16,112,662円
期中一部解約元本額	24,229,705円	82,671,632円

2. 有価証券関係

売買目的有価証券

	第13期 (自 平成24年3月10日 至 平成25年3月11日)	第14期 (自 平成25年3月12日 至 平成26年3月10日)
種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	25,796,733	15,916,116
合計	25,796,733	15,916,116

3. デリバティブ取引関係

第13期(平成25年3月11日現在)

該当事項はございません。

第14期(平成26年3月10日現在)

該当事項はございません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式(平成26年3月10日現在)

該当事項はございません。

(2) 株式以外の有価証券

(平成26年3月10日現在)

種類	銘柄	総口数(口)	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	明治安田外国債券マザーファンド	55,182,663	138,122,205	
合計		55,182,663	138,122,205	

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はございません。

（参考）

当ファンドは「明治安田外国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。

同親投資信託の状況は次の通りです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

明治安田外国債券マザーファンド

（１）貸借対照表

	（平成26年3月10日現在）
科目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
預金	59,908,993
コール・ローン	36,865,233
国債証券	2,097,129,307
特殊債券	111,610,260
社債券	185,490,554
派生商品評価勘定	14,463,587
未収入金	16,241,337
未収利息	17,978,860
前払費用	5,373,247
流動資産合計	2,545,061,378
資産合計	2,545,061,378
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	21,039,499
未払金	67,220,019
未払解約金	1,306,628
流動負債合計	89,566,146
負債合計	89,566,146
純資産の部	
元本等	
元本	981,003,719
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	1,474,491,513
元本等合計	2,455,495,232
純資産合計	2,455,495,232
負債純資産合計	2,545,061,378

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 国債証券、特殊債券、社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。 (2) 為替予約取引 個別法に基づき、計算日において予約為替の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。 なお、外貨建資産等の会計処理は「投資信託財産計算規則」第60条及び第61条に基づいております。
3. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益及び為替予約による為替差損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
4. その他	貸借対照表は、ファンドの計算期間末の平成26年3月10日現在であります。 なお、当親投資信託の計算期間は、前期末及び当期末が休日のため、平成25年3月12日から平成26年3月10日までとなっております。

(その他の注記)

(平成26年3月10日現在)	
1. 元本の移動	
対象期間(自平成25年3月12日 至 平成26年3月10日)の元本状況	
期首(平成25年3月12日)の元本額	1,335,853,621円
対象期間中の追加設定元本額	23,030,874円
対象期間中の一部解約元本額	377,880,776円
平成26年3月10日現在の元本額の内訳	
明治安田外国債券ファンド	55,182,663円
明治安田ライフプランファンド20	99,339,072円
明治安田ライフプランファンド50	100,439,775円
明治安田ライフプランファンド70	39,148,260円
フコク株25大河	29,933,232円
フコク株50大河	44,481,957円
明治安田外債日本株ファンド	444,759,399円
明治安田VA外国債券ファンド(適格機関投資家専用)	145,655,606円
明治安田VALライフプランファンド20(適格機関投資家専用)	11,778,700円
明治安田VALライフプランファンド50(適格機関投資家専用)	6,866,199円
明治安田VALライフプランファンド70(適格機関投資家専用)	2,321,330円
大河25VA 適格機関投資家専用	513,644円
大河50VA 適格機関投資家専用	583,882円
計	981,003,719円
2. 対象期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	2.5030円
(10,000口当たり純資産額)	(25,030円)

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式（平成26年3月10日現在）

該当事項はございません。

(2) 株式以外の有価証券

（平成26年3月10日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券				
米ドル	US TREASURY N/B 0.25%	300,000	300,281.25	
	US TREASURY N/B 0.25%	570,000	570,578.90	
	US TREASURY N/B 1%	510,000	514,582.03	
	US TREASURY N/B 0.875%	320,000	321,350.00	
	US TREASURY N/B 2.125%	615,000	604,573.83	
	TSY INFL IX N/B 0.625%	100,000	107,270.43	
	US TREASURY N/B 1.75%	90,000	84,768.75	
	TSY INFL IX N/B 0.125%	80,000	79,756.55	
	US TREASURY N/B 1.75%	565,000	520,638.67	
	US TREASURY N/B 4.5%	150,000	172,171.87	
	US TREASURY N/B 3.5%	100,000	97,742.18	
	US TREASURY N/B 3.125%	130,000	117,030.46	
	US TREASURY N/B 2.75%	560,000	463,662.50	
	US TREASURY N/B 2.875%	250,000	211,523.43	
	US TREASURY N/B 2.875%	80,000	67,687.50	
小計		4,420,000	4,233,618.35	
			(437,036,422)	
カナダドル	CANADA-GOV'T 2.75%	550,000	571,736.00	
小計		550,000	571,736.00	
			(53,125,709)	
オーストラリアドル	AUSTRALIAN GOVT. 3.25%	50,000	42,705.00	
小計		50,000	42,705.00	
			(3,990,355)	
イギリスポンド	TREASURY 2%	280,000	287,000.00	
	TREASURY 2%	360,000	369,000.00	
	TREASURY 2%	280,000	287,000.00	
	TREASURY 4%	1,000,000	1,078,440.00	
	TREASURY 4.75%	101,000	116,049.00	
	TREASURY 4.25%	290,000	325,803.40	
	TREASURY 4.5%	60,000	70,815.00	
	TREASURY 3.75%	30,000	31,518.00	
小計		2,401,000	2,565,625.40	
			(443,314,412)	

シンガポールドル	SINGAPORE GOV'T 2.25%	125,000	126,955.00	
小計		125,000	126,955.00	
			(10,335,406)	
マレーシアリングット	MALAYSIAN GOV'T 3.418%	415,000	394,212.65	
小計		415,000	394,212.65	
			(12,417,698)	
スウェーデンクローナ	SWEDISH GOVRNMNT 4.25%	2,500,000	2,825,325.00	
	SWEDISH GOVRNMNT 3.5%	2,300,000	2,548,860.00	
小計		4,800,000	5,374,185.00	
			(87,008,055)	
ノルウェークローネ	NORWEGIAN GOV'T 4.5%	440,000	486,464.00	
小計		440,000	486,464.00	
			(8,401,233)	
デンマーククローネ	DENMARK - BULLET 3%	1,300,000	1,461,460.00	
小計		1,300,000	1,461,460.00	
			(28,060,032)	
メキシコペソ	MEXICAN BONOS 8%	2,900,000	3,265,922.00	
小計		2,900,000	3,265,922.00	
			(25,506,850)	
南アフリカランド	REP SOUTH AFRICA 6.75%	1,120,000	1,034,656.00	
小計		1,120,000	1,034,656.00	
			(9,922,351)	
ユーロ	DEUTSCHLAND REP 2.25%	170,000	183,311.00	
	DEUTSCHLAND REP 4.75%	65,000	86,183.50	
	DEUTSCHLAND REP 4.75%	50,000	66,295.00	
	DEUTSCHLAND REP 3.25%	50,000	57,870.00	
	BTPS 4.5%	220,000	244,222.00	
	BTPS 4%	330,000	358,677.00	
	BTPS 3.75%	640,000	681,344.00	
	BTPS I/L 2.1%	700,000	771,586.91	
	BTPS I/L 3.1%	60,000	67,931.51	
	BTPS 4.75%	150,000	164,775.00	
	BTPS 4%	40,000	40,080.00	
	BTPS I/L 2.55%	50,000	50,954.07	
	BTAN 1%	205,000	208,105.75	

	FRANCE O.A.T. 3%	100,000	109,410.00	
	FRANCE O.A.T. 3.5%	135,000	149,269.50	
	FRANCE O.A.T. 3.5%	180,000	199,026.00	
	FRANCE O.A.T. 3.5%	50,000	55,285.00	
	FRANCE O.A.T. 3.5%	80,000	88,456.00	
	FRANCE O.A.T. 5.75%	40,000	56,512.00	
	FRANCE O.A.T. 3.25%	175,000	174,825.00	
	FRANCE O.A.T. 3.25%	50,000	49,950.00	
	NETHERLANDS GOVT 4%	70,000	76,020.00	
	NETHERLANDS GOVT 5.5%	90,000	123,939.00	
	SPANISH GOV'T 3.25%	230,000	240,844.50	
	SPANISH GOV'T 3.75%	120,000	129,957.60	
	SPANISH GOV'T 4.3%	180,000	199,962.00	
	SPANISH GOV'T 4.3%	100,000	111,090.00	
	SPANISH GOV'T 4.3%	60,000	66,654.00	
	SPANISH GOV'T 4.65%	50,000	55,135.00	
	SPANISH GOV'T 4.65%	100,000	110,270.00	
	SPANISH GOV'T 5.15%	70,000	80,080.00	
	SPANISH GOV'T 4.2%	75,000	75,990.00	
	BELGIAN 1.25%	615,000	624,840.00	
	BELGIAN 3%	165,000	178,744.50	
	BELGIAN 0318 3.75%	310,000	353,834.00	
	BELGIAN 0321 4.25%	145,000	170,781.00	
	BELGIAN 0326 4%	140,000	160,230.00	
	REP OF AUSTRIA 3.4%	90,000	101,745.00	
	REP OF AUSTRIA 4.15%	80,000	99,780.00	
小計		6,230,000	6,823,965.84	
			(978,010,784)	
国債証券計			2,097,129,307	
			(2,097,129,307)	
特殊債券				
米ドル	AGENCE FRANCAISE 1.625%	200,000	201,120.00	
	CAISSE AMORT DET 1.375%	155,000	154,302.50	
小計		355,000	355,422.50	
			(36,690,264)	
オーストラリアドル	RENTENBANK 6.25%	165,000	181,087.50	
	RENTENBANK 5.5%	110,000	117,106.00	
	EUROPEAN INVT BK 6.125%	105,000	113,064.00	
小計		380,000	411,257.50	

			(38,427,900)	
スウェーデンクローナ	EUROPEAN INVT BK 3%	1,000,000	1,044,100.00	
小計		1,000,000	1,044,100.00	
			(16,903,979)	
ユーロ	EFSF 1.25%	135,000	136,674.00	
小計		135,000	136,674.00	
			(19,588,117)	
特殊債券計			111,610,260	
			(111,610,260)	
社債券				
米ドル	DEUTSCHE BK LOND 6%	160,000	182,976.00	
	PETROBRAS 3%	40,000	37,920.00	
	JPMORGAN CHASE 6.3%	140,000	165,298.00	
	GEN ELEC CAP CRP 6%	80,000	94,384.00	
	HSBC HOLDINGS 4%	100,000	103,410.00	
	BP CAPITAL PLC 3.245%	175,000	170,975.00	
	VERIZON COMM INC 5.15%	70,000	75,467.00	
小計		765,000	830,430.00	
			(85,725,288)	
ユーロ	SOCIETE GENERALE 3.125%	100,000	106,830.00	
	COM BK AUSTRALIA 4.375%	100,000	114,380.00	
	CREDIT SUISSE LD 4.75%	150,000	173,722.50	
	RABOBANK 4%	60,000	67,104.00	
	ING BANK NV 4.5%	100,000	115,100.00	
	ABN AMRO BANK NV 4.125%	105,000	118,965.00	
小計		615,000	696,101.50	
			(99,765,266)	
社債券計			185,490,554	
			(185,490,554)	
合計			2,394,230,121	
			(2,394,230,121)	

(注1) 通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2) 合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

(注3) 通貨の表示は、外貨についてはその通貨の単位、邦貨については円単位で表示しております。

(注4) 有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券時価比率	合計額に対する比率
米ドル	国債証券14銘柄	17.8%	18.3%
	特殊債券2銘柄	1.5%	1.5%
	社債券7銘柄	3.5%	3.6%
カナダドル	国債証券1銘柄	2.2%	2.2%
オーストラリアドル	国債証券1銘柄	0.2%	0.2%
	特殊債券3銘柄	1.6%	1.6%
イギリスポンド	国債証券6銘柄	18.1%	18.5%
シンガポールドル	国債証券1銘柄	0.4%	0.4%
マレーシアリングgit	国債証券1銘柄	0.5%	0.5%
スウェーデンクローナ	国債証券2銘柄	3.5%	3.6%
	特殊債券1銘柄	0.7%	0.7%
ノルウェークローネ	国債証券1銘柄	0.3%	0.4%
デンマーククローネ	国債証券1銘柄	1.1%	1.2%
メキシコペソ	国債証券1銘柄	1.0%	1.1%
南アフリカランド	国債証券1銘柄	0.4%	0.4%
ユーロ	国債証券31銘柄	39.8%	40.8%
	特殊債券1銘柄	0.8%	0.8%
	社債券6銘柄	4.1%	4.2%

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

（平成26年3月10日現在）

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	695,375,459	-	716,264,416	20,888,957
	米ドル	90,936,404	-	91,385,066	448,662
	カナダドル	9,261,260	-	9,273,000	11,740
	オーストラリアドル	21,688,080	-	22,317,600	629,520
	イギリスポンド	299,511,660	-	309,834,950	10,323,290
	スウェーデンクローナ	90,010,540	-	93,024,000	3,013,460
	デンマーククローネ	11,559,870	-	12,096,000	536,130
	ユーロ	172,407,645	-	178,333,800	5,926,155
	買建	724,955,007	-	739,268,052	14,313,045
	米ドル	465,641,283	-	473,596,200	7,954,917
	カナダドル	10,748,350	-	10,730,530	17,820
	オーストラリアドル	34,233,100	-	34,992,229	759,129
	イギリスポンド	37,656,330	-	37,974,200	317,870
	スイスフラン	7,846,090	-	8,236,200	390,110
	ノルウェークローネ	28,271,100	-	29,526,151	1,255,051
	ポーランドズロチ	18,197,200	-	18,972,800	775,600
	ユーロ	122,361,554	-	125,239,742	2,878,188
	合計	-	-	-	6,575,912

（注）時価の算定方法
為替予約取引

1. 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。
計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。
計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によって評価しております。
 - ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物売買相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算したレートを用いて評価しております。
 - ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いて評価しております。
2. 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはございません。

【中間財務諸表】

(1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第15期中間計算期間（平成26年3月11日から平成26年9月10日まで）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

【明治安田外国債券ファンド】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第14期計算期間末 (平成26年3月10日現在)	第15期中間計算期間末 (平成26年9月10日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	5,285,694	2,756,038
親投資信託受益証券	138,122,205	141,255,679
未収利息	4	1
流動資産合計	143,407,903	144,011,718
資産合計	143,407,903	144,011,718
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	2,960,074	-
未払解約金	-	1,581,842
未払受託者報酬	37,253	37,208
未払委託者報酬	893,970	892,909
その他未払費用	3,672	3,647
流動負債合計	3,894,969	2,515,606
負債合計	3,894,969	2,515,606
純資産の部		
元本等		
元本	98,669,143	96,871,501
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	40,843,791	44,624,611
(分配準備積立金)	15,056,932	12,835,623
元本等合計	139,512,934	141,496,112
純資産合計	139,512,934	141,496,112
負債純資産合計	143,407,903	144,011,718

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第14期中間計算期間 (自 平成25年 3 月12日 至 平成25年 9 月11日)	第15期中間計算期間 (自 平成26年 3 月11日 至 平成26年 9 月10日)
営業収益		
受取利息	238	134
有価証券売買等損益	4,344,944	5,341,865
営業収益合計	4,345,182	5,341,999
営業費用		
受託者報酬	38,045	37,208
委託者報酬	912,988	892,909
その他費用	3,739	3,647
営業費用合計	954,772	933,764
営業利益又は営業損失 ()	3,390,410	4,408,235
経常利益又は経常損失 ()	3,390,410	4,408,235
中間純利益又は中間純損失 ()	3,390,410	4,408,235
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額 ()	620,542	152,591
期首剰余金又は期首欠損金 ()	48,297,035	40,843,791
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,149,970	5,886,816
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,149,970	5,886,816
剰余金減少額又は欠損金増加額	20,475,322	6,361,640
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	20,475,322	6,361,640
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ()	33,741,551	44,624,611

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他	当ファンドの計算期間は、前期末が休日のため、平成26年3月11日から平成27年3月9日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成26年3月11日から平成26年9月10日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第14期計算期間末 (平成26年3月10日現在)	第15期中間計算期間末 (平成26年9月10日現在)
1. 計算期間の末日における受益権の総数 98,669,143口	1. 中間計算期間の末日における受益権の総数 96,871,501口
2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.4139円 (10,000口当たり純資産額) (14,139円)	2. 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.4607円 (10,000口当たり純資産額) (14,607円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第14期中間計算期間 (自平成25年3月12日 至平成25年9月11日)	第15期中間計算期間 (自平成26年3月11日 至平成26年9月10日)
当ファンドの主要投資対象である親投資信託受益証券における信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 支払金額 233,711円	当ファンドの主要投資対象である親投資信託受益証券における信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 支払金額 222,670円

（金融商品に関する注記）

1. 金融商品の時価等に関する事項

	第14期計算期間 （自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日）	第15期中間計算期間 （自 平成26年 3月11日 至 平成26年 9月10日）
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	親投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	親投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

1. 元本の移動

	第14期計算期間 （自 平成25年 3月12日 至 平成26年 3月10日）	第15期中間計算期間 （自 平成26年 3月11日 至 平成26年 9月10日）
期首元本額	165,228,113円	98,669,143円
期中追加設定元本額	16,112,662円	13,562,981円
期中一部解約元本額	82,671,632円	15,360,623円

2. デリバティブ取引関係

第14期計算期間末（平成26年 3月10日現在）

該当事項はございません。

第15期中間計算期間末（平成26年 9月10日現在）

該当事項はございません。

（参考）

当ファンドは「明治安田外国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。

同親投資信託の状況は次の通りです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

明治安田外国債券マザーファンド

（１）貸借対照表

	（平成26年9月10日現在）
科目	金額（円）
資産の部	
流動資産	
預金	11,247,034
コール・ローン	41,718,623
国債証券	1,887,540,771
特殊債券	113,885,588
社債券	188,568,545
派生商品評価勘定	15,810,026
未収入金	49,490,781
未収利息	15,940,860
前払費用	1,821,198
流動資産合計	2,326,023,426
資産合計	2,326,023,426
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	4,941,242
未払金	63,504,955
未払解約金	2,500,458
流動負債合計	70,946,655
負債合計	70,946,655
純資産の部	
元本等	
元本	865,678,920
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	1,389,397,851
元本等合計	2,255,076,771
純資産合計	2,255,076,771
負債純資産合計	2,326,023,426

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 国債証券、特殊債券、社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。 (2) 為替予約取引 個別法に基づき、計算日において予約が替の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。 なお、外貨建資産等の会計処理は「投資信託財産計算規則」第60条及び第61条に基づいております。
3. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益及び為替予約による為替差損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
4. その他	貸借対照表は、ファンドの中間計算期間末の平成26年9月10日現在であります。 なお、当親投資信託の計算期間は、前期末が休日のため、平成26年3月11日から平成27年3月9日までとなっております。

(その他の注記)

(平成26年9月10日現在)	
1. 元本の移動	
対象期間(自平成26年3月11日 至 平成26年9月10日)の元本状況	
期首(平成26年3月11日)の元本額	981,003,719円
対象期間中の追加設定元本額	10,769,898円
対象期間中の一部解約元本額	126,094,697円
平成26年9月10日現在の元本額の内訳	
明治安田外国債券ファンド	54,224,829円
明治安田ライフプランファンド20	84,960,332円
明治安田ライフプランファンド50	87,244,909円
明治安田ライフプランファンド70	34,693,121円
フコク株25大河	28,646,882円
フコク株50大河	43,727,482円
明治安田外債日本株ファンド	380,250,252円
明治安田VA外国債券ファンド(適格機関投資家専用)	132,925,563円
明治安田VAライフプランファンド20(適格機関投資家専用)	9,827,664円
明治安田VAライフプランファンド50(適格機関投資家専用)	5,842,982円
明治安田VAライフプランファンド70(適格機関投資家専用)	2,321,330円
大河25VA 適格機関投資家専用	429,692円
大河50VA 適格機関投資家専用	583,882円
計	865,678,920円
2. 対象期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	2.6050円
(10,000口当たり純資産額)	(26,050円)

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2【ファンドの現況】

（平成26年9月30日現在）

【純資産額計算書】

資産総額	135,264,032円
負債総額	1,301,558円
純資産総額（ - ）	133,962,474円
発行済口数	89,860,656口
1口当たり純資産額（ / ）	1.4908円
（1万口当たり純資産額）	（14,908円）

（参考）

明治安田外国債券マザーファンド

純資産額計算書

資産総額	3,831,484,579円
負債総額	1,608,967,825円
純資産総額（ - ）	2,222,516,754円
発行済口数	835,109,736口
1口当たり純資産額（ / ）	2.6613円
（1万口当たり純資産額）	（26,613円）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

- (1) 名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料
該当事項はありません。
- (2) 受益者等に対する特典
該当事項はありません。
- (3) 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容
該当事項はありません。
- (4) その他内国投資信託受益証券事務に関し投資者に示すことが必要な事項
該当事項はありません。
- (5) 振替受益権

受益証券の不発行

委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。

質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定による他、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金の額

本書提出日現在の資本金の額：	10億円
会社が発行する株式総数：	33,220株
発行済株式総数：	18,887株

<過去5年間における資本金の額の推移>

該当事項はありません。

(2)委託会社の機構

会社の意思決定機構

経営の意思決定機関として取締役会をおきます。取締役会は、法令、定款に定める事項ならびに本会社の業務執行に関する重要事項を決定するほか、執行役員を選任し、本会社の業務執行を委任します。執行役員は取締役会において決定された基本方針に則り、本会社の業務執行を行います。

投資運用の意思決定機構

- 1.投資政策委員会にて、マクロ経済環境・市況環境に関する分析、資産配分・資産毎の運用戦略に関する検討を行います。
- 2.ファンドの運用担当者は、投資政策委員会における分析・検討等を踏まえて運用計画を策定し、運用計画に基づき、有価証券等の売買をトレーディング部門に指図します。
- 3.ファンドの運用の基本規程等の遵守状況の管理、運用資産のリスク管理は、運用部門から独立したコンプライアンス・リスク管理部、運用企画部が行います。
- 4.投資管理委員会にて、ファンドの運用パフォーマンスの評価等を行い、これを運用部門にフィードバックすることにより、より精度の高い運用体制を維持するよう努めています。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）およびその受益権の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成26年9月30日現在、委託会社が運用の指図を行っている証券投資信託は以下の通りです（ただし、親投資信託を除きます。）。

種 類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	142 本	799,365,091,859 円
単位型株式投資信託	2 本	5,973,213,718 円
合 計	144 本	805,338,305,577 円

3【委託会社等の経理状況】

1．財務諸表の作成方法について

委託会社である明治安田アセットマネジメント株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	7,585,064	8,085,650
前払費用	80,260	101,153
未収入金	190,980	3,012
未収委託者報酬	487,397	824,141
未収運用受託報酬	141,641	147,074
未収投資助言報酬	197,081	217,338
その他	15,812	991
流動資産合計	8,698,236	9,379,363
固定資産		
有形固定資産		
建物	¹ 90,863	¹ 84,549
器具備品	¹ 117,771	¹ 100,559
有形固定資産合計	208,635	185,108
無形固定資産		
ソフトウェア	57,810	48,708
電話加入権	6,662	6,662
その他	340	257
無形固定資産合計	64,813	55,628
投資その他の資産		
投資有価証券	-	200
長期差入保証金	97,273	96,907
長期前払費用	95	30
投資その他の資産合計	97,368	97,137
固定資産合計	370,817	337,875
資産合計	9,069,054	9,717,238

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	82,916	23,796
未払金	539,304	603,836
未払収益分配金	135	121
未払償還金	7,315	7,315
未払手数料	198,056	337,275
その他未払金	333,796	259,123
未払費用	30,603	17,762
未払法人税等	7,214	57,049
未払消費税等	-	60,062
賞与引当金	86,215	51,446
流動負債合計	746,254	813,953
固定負債		
退職給付引当金	84,636	47,801
繰延税金負債	-	0
資産除去債務	27,376	27,735
固定負債合計	112,012	75,537
負債合計	858,266	889,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	660,443	660,443
その他資本剰余金	2,854,339	2,854,339
資本剰余金合計	3,514,783	3,514,783
利益剰余金		
利益準備金	83,040	83,040
その他利益剰余金		
別途積立金	3,092,001	3,092,001
繰越利益剰余金	520,962	1,137,921
利益剰余金合計	3,696,003	4,312,963
株主資本合計	8,210,787	8,827,746
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	-	0
評価・換算差額等合計	-	0
純資産合計	8,210,787	8,827,746
負債・純資産合計	9,069,054	9,717,238

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	2,773,510	4,149,012
受入手数料	21,027	11,000
運用受託報酬	1,564,002	1,371,391
投資助言報酬	372,192	411,659
営業収益合計	4,730,732	5,943,063
営業費用		
支払手数料	1,246,685	1,842,089
広告宣伝費	17,645	17,865
公告費	-	161
調査費	975,236	1,236,192
調査費	385,416	360,775
委託調査費	589,820	875,417
委託計算費	287,651	292,437
営業雑経費	90,766	106,361
通信費	17,735	17,043
印刷費	61,830	79,080
協会費	7,902	7,057
諸会費	3,283	2,989
営業雑費	14	190
営業費用合計	2,617,985	3,495,108
一般管理費		
給料	1,423,034	1,173,694
役員報酬	59,208	55,993
給料・手当	1,123,919	950,974
賞与	239,907	166,726
その他報酬	-	1,551
賞与引当金繰入	86,215	51,446
福利厚生費	239,485	205,022
交際費	1,049	1,176
寄付金	200	200
旅費交通費	27,549	25,398
租税公課	21,013	22,977
不動産賃借料	209,742	85,159
退職給付費用	27,754	14,537
固定資産減価償却費	81,773	60,202
諸経費	141,550	146,367
一般管理費合計	2,259,368	1,787,733
営業利益又は営業損失()	146,621	660,222

（単位：千円）

	前事業年度		当事業年度	
	（自	平成24年4月1日	（自	平成25年4月1日
	至	平成25年3月31日）	至	平成26年3月31日）
営業外収益				
受取利息		3,610		2,661
償還金等時効完成分		50		42
保険契約返戻金・配当金		¹ 1,192		¹ 1,269
雑益		848		541
営業外収益合計		5,702		4,515
営業外費用				
為替差損		-		61
貸借契約解約損		117		-
雑損		1		-
営業外費用合計		119		61
経常利益又は経常損失（ ）		141,038		664,675
特別利益		-		-
特別損失				
固定資産除却損		² 161,764		² 190
本社移転関連費用		¹ 88,653		-
特別退職加算金等		130,628		-
特別損失合計		381,046		190
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失（ ）		522,084		664,484
法人税、住民税及び事業税		2,290		47,525
法人税等合計		2,290		47,525
当期純利益又は当期純損失（ ）		524,374		616,959

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,000,000	660,443	2,854,339	3,514,783
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純損失（ ）				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	1,000,000	660,443	2,854,339	3,514,783

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			株主資本 合計
		その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	83,040	3,092,001	1,050,436	4,225,478	8,740,261
当期変動額					
剰余金の配当			5,099	5,099	5,099
当期純損失（ ）			524,374	524,374	524,374
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	529,474	529,474	529,474
当期末残高	83,040	3,092,001	520,962	3,696,003	8,210,787

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	-	-	8,740,261
当期変動額			
剰余金の配当			5,099
当期純損失（ ）			524,374
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	-	529,474
当期末残高	-	-	8,210,787

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,000,000	660,443	2,854,339	3,514,783
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				

株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	1,000,000	660,443	2,854,339	3,514,783

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	83,040	3,092,001	520,962	3,696,003	8,210,787
当期変動額					
剰余金の配当					
当期純利益			616,959	616,959	616,959
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	616,959	616,959	616,959
当期末残高	83,040	3,092,001	1,137,921	4,312,963	8,827,746

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	-	-	8,210,787
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			616,959
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	0	0	0
当期変動額合計	0	0	616,959
当期末残高	0	0	8,827,746

重要な会計方針

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）</p>
<p>2. 固定資産の減価償却方法</p> <p>(1) 有形固定資産 定額法 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 8年～18年 器具備品 3年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p>

3. 引当金の計上基準

- (1) 賞与引当金は、従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。
- (2) 退職給付引当金は、従業員に対する退職金の支払に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を、簡便法により計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項**消費税等の会計処理方法**

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

表示方法の変更

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当事業年度より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、（退職給付関係）注記の表示方法を変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、（退職給付関係）注記の組替えは行っておりません。

注記事項

（貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	1,052千円	7,366千円
器具備品	222,594千円	220,998千円

（損益計算書関係）

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
保険契約返戻金・配当金	1,192千円	1,269千円
本社移転関連費用	30,179千円	-

2 前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

固定資産除却損の内容は、建物107,628千円、器具備品53,722千円、ソフトウェア413千円であります。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

固定資産除却損の内容は、主にソフトウェア190千円であります。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	18,887株	-	-	18,887株

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,099,490円	270円00銭	平成24年3月31日	平成24年6月27日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	18,887株	-	-	18,887株

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	308,424,710円	16,330円00銭	平成26年3月31日	平成26年6月27日

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用について財務内容の健全性を損なうことのないよう、主に安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びに金融商品にかかるリスク管理体制

営業債権である未収委託者報酬、未収運用受託報酬は、主に当社が運用指図を行う信託財産より支弁され、当社は当該信託財産の内容を把握しており、当該営業債権の回収にかかるリスクは僅少であります。また、営業債権である未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されており、投資助言先ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、四半期ごとに回収可能性を把握する体制としております。

営業債務である未払手数料、並びにその他未払金は、1年以内の支払期日です。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（平成25年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	7,585,064	7,585,064	-
(2) 未収委託者報酬	487,397	487,397	-
(3) 未収運用受託報酬	141,641	141,641	-
(4) 未収投資助言報酬	197,081	197,081	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	-	-	-
(6) 長期差入保証金	97,273	84,120	13,152
資産計	8,508,457	8,495,304	13,152
(1) 未払手数料	198,056	198,056	-
(2) その他未払金	333,796	333,796	-
負債計	531,852	531,852	-

当事業年度（平成26年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	8,085,650	8,085,650	-
(2) 未収委託者報酬	824,141	824,141	-
(3) 未収運用受託報酬	147,074	147,074	-
(4) 未収投資助言報酬	217,338	217,338	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	200	200	-
(6) 長期差入保証金	96,907	85,233	11,673
資産計	9,371,312	9,359,639	11,673
(1) 未払手数料	337,275	337,275	-
(2) その他未払金	259,123	259,123	-
負債計	596,399	596,399	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

- (1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

- (6) 長期差入保証金

長期差入保証金の時価の算定は、その将来キャッシュフローを、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

- (1) 未払手数料、(2) その他未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	7,584,441	-	-	-
未収委託者報酬	487,397	-	-	-
未収運用受託報酬	141,641	-	-	-
未収投資助言報酬	197,081	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち 満期のあるもの	-	-	-	-
長期差入保証金	366	-	-	96,907
合計	8,410,927	-	-	96,907

当事業年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	8,084,873	-	-	-
未収委託者報酬	824,141	-	-	-
未収運用受託報酬	147,074	-	-	-
未収投資助言報酬	217,338	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち 満期のあるもの	-	100	-	-
長期差入保証金	-	-	-	96,907
合計	9,273,427	100	-	96,907

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当事業年度（平成26年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原 価を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他(投資信託)	200	200	0
小計	200	200	0
貸借対照表計上額が取得原 価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他(投資信託)	-	-	-
小計	-	-	-

合計	200	200	0
----	-----	-----	---

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券
該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務	(千円)	454,392
(2) 年金資産	(千円)	369,756
(3) 未積立退職給付債務 (1)+(2)	(千円)	84,636
(4) 退職給付引当金 (3)	(千円)	84,636

3. 退職給付費用に関する事項

退職給付費用	(千円)	27,754
--------	------	--------

(注) 上記の退職給付費用以外に特別退職金129,228千円を特別損失に計上しております。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を併用しております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	84,636	千円
退職給付費用	14,537	"
退職給付の支払額	-	"
制度への拠出額	51,371	"
退職給付引当金の期末残高	47,801	"

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	440,436	千円
年金資産	392,907	"
	47,258	"
非積立型制度の退職給付債務	273	"
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	47,801	"
退職給付に係る負債	47,801	"
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	47,801	"

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	14,537	千円
----------------	--------	----

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
繰延税金資産				
税務上の繰越欠損金	689,786	千円	488,264	千円
税務上の繰延資産償却超過額	46,523	"	30,791	"
賞与引当金繰入限度超過額	32,770	"	18,335	"
退職給付引当金繰入限度超過額	31,036	"	17,036	"
その他	24,586	"	26,327	"
繰延税金資産小計	824,703	"	580,755	"
評価性引当額	814,989	"	571,781	"
繰延税金資産合計	9,713	"	8,974	"
繰延税金負債				
その他有価証券評価差額金	-	"	0	"
資産除去費用	9,713	"	8,974	"
繰延税金負債合計	9,713	"	8,974	"
繰延税金資産の純額	-	"	0	"

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
法定実効税率	-		38.01	%
（調整）				
交際費等永久に損金に算入されない項目	-		0.07	"
評価性引当額の増減	-		31.25	"
住民税均等割	-		0.35	"
その他	-		0.03	"
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-		7.15	%

（注）前事業年度は、税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等について、前事業年度の38.01%から35.64%に変更されております。

なお、この変更による財務諸表への影響はありません。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

本社施設の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を主たる資産の耐用年数満了時（15年）としており、割引率は1.314%を適用しております。

なお、前事業年度の本社移転に伴い、使用見込期間を16年から15年に、割引率を0.896%から1.314%にそれぞれ変更しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)		当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	
期首残高	55,470	千円	27,376	千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	27,316	"	-	"
時の経過による調整額	515	"	359	"
資産除去債務の履行による減少額	55,925	"	-	"

期末残高	27,376 千円	27,735 千円
------	-----------	-----------

(持分法損益等)
該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社の事業は、資産運用サービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託 (運用業務)	投資信託 (販売業務)	投資顧問 (投資一任)	投資顧問 (投資助言)	合計
外部顧客への売上高	2,773,510	21,027	1,564,002	372,192	4,730,732

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託 (運用業務)	投資信託 (販売業務)	投資顧問 (投資一任)	投資顧問 (投資助言)	合計
外部顧客への売上高	4,149,012	11,000	1,371,391	411,659	5,943,063

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれん償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

1. 関連当事者との取引

親会社及び法人主要株主等

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区	210,000	生命保険業	(被所有) 直接 92.86%	資産運用サービスの提供、当社投信商品の販売、設備の賃借及び役員の兼任	運用受託報酬	26,081	未収運用受託報酬	5,926
							投資助言報酬	359,783	未収投資助言報酬	190,120
							支払手数料	162,340	未払手数料	53,501
							事務所家賃	231,510	未収入金	190,313
									その他未払金	99

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区	260,000	生命保険業	(被所有) 直接 92.86%	資産運用サービスの提供、当社投信商品の販売、及び役員の兼任	運用受託報酬	24,994	未収運用受託報酬	6,713
							投資助言報酬	390,411	未収投資助言報酬	205,397
							支払手数料	190,026	未払手数料	63,325

取引条件ないし取引条件の決定方針等

運用受託報酬および投資助言報酬並びに支払手数料については、契約に基づき決定しております。

事務所家賃については、近隣の取引情勢に基づいて、契約により所定金額を決定しております。

（注）上記取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

明治安田生命保険相互会社（非上場）

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	434,732円21銭	467,398円04銭
1株当たり当期純利益金額または当期純損失金額()	27,763円78銭	32,665円81銭

(注) 1. 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 算定上の基礎は、以下のとおりであります。

1株当たり純資産額

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	8,210,787	8,827,746
普通株式に係る純資産額(千円)	8,210,787	8,827,746
差額の主な内訳	-	-
普通株式の発行済株式数(株)	18,887	18,887
普通株式の自己株式数(株)	-	-
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	18,887	18,887

1株当たり当期純利益金額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益又は当期純損失()(千円)	524,374	616,959
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()(千円)	524,374	616,959
普通株式の期中平均株式数(株)	18,887	18,887

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1)自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (2)運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (3)通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4)委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5)上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要となります。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称	みずほ信託銀行株式会社
資本金の額	247,260百万円（平成26年3月末現在）
事業の内容	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額（百万円） （平成26年3月末現在）	事業の内容
楽天証券株式会社 株式会社SBI証券	7,495 47,937	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでおります。
株式会社北海道銀行	93,524	日本において、銀行法に基づき、銀行業を営んでいます。
明治安田生命保険相互会社	670,000 （平成26年3月末現在の基金および基金償却積立金の合計）	日本において、保険業法に基づき、生命保険業を営んでいます。

明治安田生命保険相互会社は、確定拠出年金による取得申込を除き、平成26年3月26日以降、新規販売は行わず、換金のみ受け付けます。なお、自動けいぞく投資コースの場合の分配金再投資は行われず、

(3) 投資顧問会社

名称	UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッド
資本金の額	1億2,500万ポンド（平成26年3月末現在）
事業の内容	イギリスにおいて、内外の有価証券等に係る投資顧問業務およびその他付帯関連する一切の業務を行っています。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

ファンドの受託者として、ファンドの信託財産の保管・管理・計算、その他付随する業務等を行います。なお、受託者は、信託事務の一部につき再信託受託会社に委託することがあります。

(2) 販売会社

ファンドの販売会社として、募集・販売の取扱い、受益者に対する運用報告書の交付、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

(3) 投資顧問会社

投資顧問会社として、運用の指図に関する権限の一部委託を受けて、投資判断、発注等を行います。

（参考情報：再信託受託会社の概要）

1．名称、資本金の額及び事業の内容

（平成26年3月末現在）

名称	資本金の額 （百万円）	事業の内容
資産管理サービス信託銀行株式会社	50,000	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

2．関係業務の概要

受託会社との信託契約（再信託契約）に基づき、当ファンドの信託事務の一部（信託財産の管理）を委託され、その事務を行うことがあります。

3．資本関係

該当事項はありません。

3【資本関係】

「販売会社」である明治安田生命保険相互会社は、委託会社の株主であり、その保有株は17,539株（持株比率92.86%）です。

第3【その他】

- (1) 目論見書の表紙に委託会社のロゴ・マーク、図案、キャッチ・コピー等を採用し、ファンドの形態等の記載をすることがあります。
- (2) 交付目論見書の表紙に、その使用開始日及び委託会社等の情報として、金融商品取引業者登録番号、設立年月日、委託会社の投資信託財産の合計純資産総額を掲載します。
- (3) 届出書本文第一部「証券情報」、第二部「ファンド情報」の主要内容を要約し、「1. ファンドの目的・特色」、「2. 投資リスク」、「4. 手続・手数料等」として、交付目論見書に記載します。
- (4) 交付目論見書に商品分類および属性区分の一覧表を掲載します。
- (5) 請求目論見書に約款を掲載し、届出書本文第一部「証券情報」、第二部「ファンド情報」の詳細な内容については、当該約款を参照する旨を記載することで、届出書の内容の記載とすることがあります。
- (6) 届出書本文第一部「証券情報」、第二部「ファンド情報」の記載内容については、投資家の理解を助けるため、当該内容を説明した図表等を付加して、交付目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (7) 目論見書は電子媒体等として使用されるほかインターネットなどに掲載される場合があります。
- (8) 目論見書の別称として、次を用いることがあります。
 - 「投資信託説明書（目論見書）」
 - 「投資信託説明書（交付目論見書）」
 - 「投資信託説明書（請求目論見書）」
- (9) 交付目論見書に金融商品取引法第37条の3の規定に基づく契約締結前書面に関する事項を記載することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6月27日

明治安田アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 壁 谷 惠 嗣
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 蓑 輪 康 喜
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている明治安田アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、明治安田アセットマネジメント株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年5月2日

明治安田アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 蒲谷 剛史 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 雅人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている明治安田外国債券ファンドの平成25年3月12日から平成26年3月10日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、明治安田外国債券ファンドの平成26年3月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

明治安田アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年11月7日

明治安田アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 蒲谷 剛史 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている明治安田外国債券ファンドの平成26年3月11日から平成26年9月10日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、明治安田外国債券ファンドの平成26年9月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成26年3月11日から平成26年9月10日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

明治安田アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。